

RESEARCH REPORT ON A STUDY OF
VOLUNTEERS AT KOBE MARATHON 2015

『神戸マラソン 2015』
ボランティアに関する調査報告書

2016 年 1 月

兵庫体育・スポーツ科学学会
ひょうご地域スポーツ振興プロジェクト
『神戸マラソン 2015 ボランティア調査グループ』

神戸マラソン実行委員会

『神戸マラソン 2015』ボランティアに関する調査報告書

概要

1. 目的

本調査は、「神戸マラソン 2015」におけるボランティア参加者の意識と活動状況を分析することを目的としている。特に、動機、満足、次回大会へのボランティア参加意図などを中心に分析を行い、今後のボランティアマネジメントに役立つ基礎資料としたい。

2. 内容

- 1) 属性：性別、年齢、職業、居住地
- 2) 本大会におけるボランティア活動について：
応募形態、担当業務、情報源、応募のきっかけ、ボランティアへの応募動機、ボランティア参加後の満足（各項目と全体的な満足度）
- 3) 次回大会への参加意図とこれまでの活動状況：
来年の神戸マラソンボランティアへの参加意図、これまでの神戸マラソンボランティア活動の経験
- 4) スポーツ活動状況：スポーツ実施頻度
- 5) 全体的な満足度のクロス集計結果：
性別、年齢区分、応募形態、活動場所、参加回数、再参加意図
- 6) 再参加意図のクロス集計結果
性別、年齢区分、応募形態、活動場所、参加回数
- 7) 動機と再参加意図
- 8) 満足（各項目）と再参加意図

資料)：参加後の感想、意見、要望：自由記述

調 査 項 目

要因群	項 目	カテゴリー
属 性	回答者の属性	1.性別 2.年齢 3.職業 4.居住地
参加状況	情報源	1.友人 2.職場 3.学校 4.職場・学校以外の団体 5.新聞・雑誌 6.テレビ・ラジオ 7.地域の広報誌 8.ポスター・ちらし 9.インターネット 10.その他
	応募のきっかけ	1.自分の意志 2.身近な人のすすめ 3.学校 4.学校以外の所属団体 5.ランナーとしてエントリーしたがはずれた 6.その他
応募形態と 担当業務	応募形態	1.個人ボランティア 2.団体ボランティア(高校) 3.団体ボランティア(大学) 4.団体ボランティア(一般) 5.オフィシャルスポンサー
	担当業務	1.コース沿道整理 2.給水・給食 3.手荷物預かり・返却 4.給水・給食サービス(スタート) 5.更衣所管理 6.インフォメーション 7.ランナーサポート 8.案内誘導 9.ランナーサービス
動 機	ボランティアの動機 (20項目)	1.当てはまらない 2.あまり当てはまらない 3.まあ当てはまる 4.非常に当てはまる
満足	全体的な満足	1.満足していない 2.あまり満足していない 3.まあ満足している 4.非常に満足している
	参加後の満足 (18項目)	1.当てはまらない 2.あまり当てはまらない 3.まあ当てはまる 4.非常に当てはまる
来年の参加意図	ボランティア参加	1.はい 2.いいえ 3.わからない
これまでの参加状況	ボランティア参加	1.今回が初めて 2.2回目 3.3回目 4.4回目 5.5回目
スポーツ活動状況	スポーツ実施頻度	1.週3回以上 2.週1-2回 3.月1-2回程度 4.3ヶ月に1-2回程度 5.年に1-2回 6.行わなかった
活動後の感想	ボランティア活動後の 感想、意見、要望	自由記述

3. 対象

- 1) 母集団：「神戸マラソン 2015」で活動した登録ボランティア
- 2) 登録ボランティア数：6,047 名（エリアリーダー30 名、団体ボランティア 5,426 名、個人ボランティア 591 名）
※ 上記以外にも救護ボランティア、競技役員付補助員等 1,397 名が登録。

4. 抽出方法

本調査は、ボランティア登録者数の約 10%のサンプルを算出した。そして、応募形態、担当業務それぞれを可能な限り約 10%の割合で抽出し、あらかじめ配布先を決定した。ボランティア活動終了後にアンケート調査票へ記入してもらった（オフィシャルスポンサーのみ後日回収）。

5. 回収結果

有効回答数：626 票

個人ボランティア：50 票

団体ボランティア（高校）：122 票、団体ボランティア（大学）：138 票、団体ボランティア（一般）：235 票

オフィシャルスポンサー：81 票

6. 分析方法

データの分析は単純集計とクロス集計を行い、有意差検定には χ^2 検定およびF検定を実施した。

7. 研究組織

1) 組織

兵庫体育・スポーツ科学学会 ひょうご地域スポーツ振興プロジェクト

2) 『神戸マラソンボランティア調査グループ』メンバー

松村浩貴、土肥隆、伊藤克広（以上：兵庫県立大学）、福田一儀（至誠館大学）、船越達也（大阪国際大学）、勝木洋子（神戸親和女子大学）、山口志郎（流通科学大学）

3) 連絡先

〒651-2197 神戸市西区学園西町 8-2-1

兵庫県立大学経営学部 松村浩貴研究室

Phone: 078-794-7095

Fax: 078-794-7129

E-mail: kouki@biz.u-hyogo.ac.jp

8. 調査協力

神戸マラソン実行委員会

結果の要約

1. 性別は、やや女性の割合が多かった。年齢構成は、「20歳未満」が最も多く、10歳代～20歳代の若年層が約半数を占めていた。また、50歳以上の中高年層は3割弱であった。
職業は、「学生」が最も多く、約半数を占めていた。
居住地は、約6割が神戸市在住であり、9割以上が兵庫県在住の参加者であった。
2. 応募形態は、「団体ボランティア（一般）」が最も多く、次いで「団体ボランティア（大学）」「団体ボランティア（高校）」「オフィシャルスポンサー」「個人ボランティア」の順であった。
3. 担当業務は、「給水・給食」が最も多く、次いで「コース沿道整理」「手荷物預かり・返却」の順であった。
4. 情報源は、「学校」「職場」「職場・学校以外の団体」「友人」が多かった。新聞、広報誌、テレビ、インターネットなどのマスコミによる情報よりも、口コミでの情報の方が多かった。
5. 応募のきっかけは、「学校から」が最も多く、次いで「自分の意志」「学校以外の所属団体」「身近な人から」の順であった。ボランティアの約3割が自発的な参加者であり、周囲からの勧めがきっかけとなり参加している者が約7割であった。
6. ボランティアへの応募動機は、「日常では得られない経験ができる」が最も高く、次いで「神戸マラソンの成功に役立ちたい」「人のために役立ちたい」「地域に貢献できる」「社会に貢献できる」の順であった。逆に、「仕事に役立つ」「知人からの勧誘・紹介」は低い値を示した。「非日常」「貢献」など、非日常の経験ができることや大会の成功、地域・社会に貢献したいという反応が高かった。一方、「キャリア」に関する項目は低い値を示した。
7. ボランティア参加後の満足は、「人のために役立った」が最も高く、次いで「日常では得られない経験ができた」「他人と協力して目的を達成できた」「地域に貢献できた」「社会に貢献」の順であった。逆に、「仕事に役立った」「自己の再発見につながった」「人的ネットワークがくれた」で低い値を示した。「非日常」「協力」「貢献」の項目で高い満足度を示し、「キャリア」の項目での満足度は低かった。
8. ボランティア全体を通しての満足度は、「非常に満足している」が29.2%、「まあ満足している」が63.7%、「あまり満足していない」が5.7%、「満足していない」が1.5%であった。「非常に満足している」と「まあ満足している」を足した値が9割以上であったことから、ボランティア参加者は概ね満足しているという結果であった。
9. 来年のボランティアへの参加意図は、「参加したい」が約6割を占めていた。
10. 神戸マラソンボランティア活動の経験は、「今回が初めて」の参加者が52.5%、「2回目」が23.2%、「3回以上」が24.3%であった。ほぼ半数が初めての参加者で、ほぼ半数が複数回の参加者であった。
11. 「全体的満足のカロス集計」
 - 1) 満足と性別は、性別で大きな違いはみられなかった。
 - 2) 満足と年齢区分では、「非常に満足している」と答えた者の割合は若年層ほど多いことが明らかになった。
 - 3) 満足と応募形態は、「非常に満足している」と答えた者の割合は「オフィシャルスポン

サー」「団体ボランティア（高校）」「団体ボランティア（大学）」で多く、「団体ボランティア（一般）」「個人ボランティア」で少ないことが明らかになった。

- 4) 満足と活動場所は、「コース以外」と「コース沿道」の活動に分類した場合、「非常に満足している」と答えた者の割合は「コース以外」よりも「コース沿道」の方が多いことが明らかになった。
- 5) 満足と参加回数は、「非常に満足している」と答えた者の割合は「初めて」の参加者が多く、参加回数が少ない方が満足度が高いことが明らかになった。
- 6) 満足と再参加意図では、「満足している」の割合は、再参加意図をもつ参加者が最も多かった。次回も参加したいと考えている人は満足度も高く、もう参加したくないと考えている人は満足度も低いことが明らかになった。

12. 「再参加意図のクロス集計」

- 1) 再参加意図と性別は、性別で大きな違いはみられなかった。
- 2) 再参加意図と年齢区分は、年齢の高い層の方が再参加意図が高かった。
- 3) 再参加意図と応募形態は、「個人ボランティア」「団体ボランティア（一般）」「オフィシャルスポンサー」で再参加意図をもった人が多かった。
- 4) 再参加意図と活動場所は、「コース沿道」と「コース以外」で分類した場合、「コース以外」の活動の方が再参加意図は高かった。前項の満足度と比較してみると、活動場所において、満足度と再参加意図との間に関連性はみられなかった。
- 5) 再参加意図と参加回数は、参加回数が多くなるほど再参加意図をもつ割合が高い値を示した。参加回数の多い参加者は次回も参加する意志が強いことが明らかになった。前項の満足度と比較してみると、参加回数において、満足度と再参加意図との間に関連性はみられなかった。

13. 「動機と再参加意図」

次回も参加したいと思っている参加者は、どのような動機をもって参加しているのかを調べるために、動機と再参加意図を集計した。次回の参加意図を持っている人は、「神戸マラソンの成功に役立ちたい」「ボランティアに興味がある」「地域に貢献したい」「神戸マラソンに魅力を感じる」「他人と協力して目的を達成したい」「社会に貢献したい」「人のために役立ちたい」の項目で特に大きな差がみられた。再び参加したいと思っている人の動機の特徴は、「神戸マラソン」「ボランティアへの興味」「貢献」「協力」がキーワードとしてあげられる。

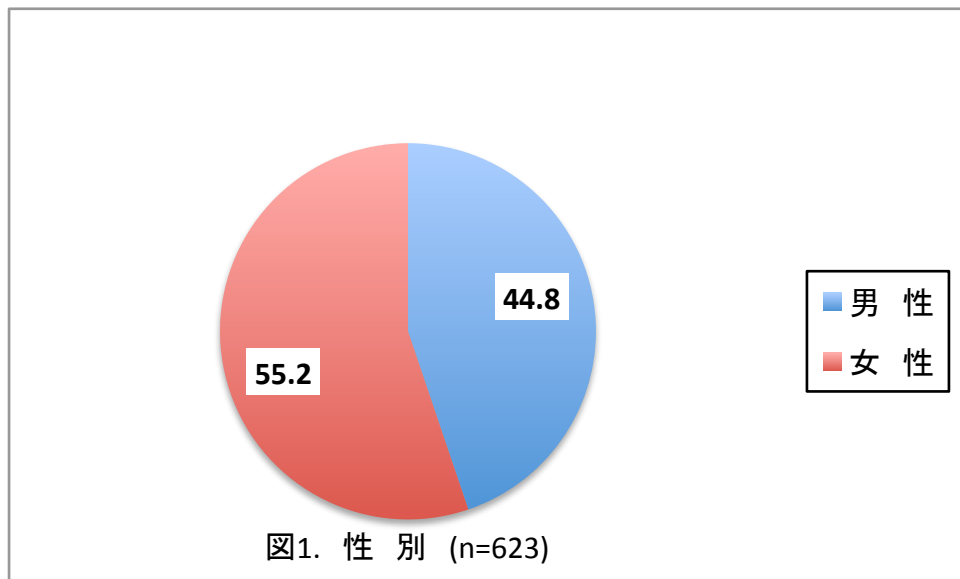
14. 「満足度（各項目）と再参加意図」

再参加意図がある人は具体的にどのような項目で満足を感じているのかを調べるために、各項目の満足度と再参加意図を集計した。ほとんどの項目で再参加意図をもっている人が高い値を示し、18項目中17項目で有意差がみられた。そのなかでも、特に差が顕著にみられた項目は「余暇を有効に過ごせた」「他人と協力して目的を達成できた」「スタッフの対応・態度が適切であった」「人との出会いや交流があった」「大会運営が適切であった」「地域に貢献できた」「社会に貢献できた」「事前の情報提供が適切だった」であった。再参加意図がある人は、具体的な満足として「貢献」「交流」「達成」「運営」といったキーワードがあげられる。

サンプルの属性

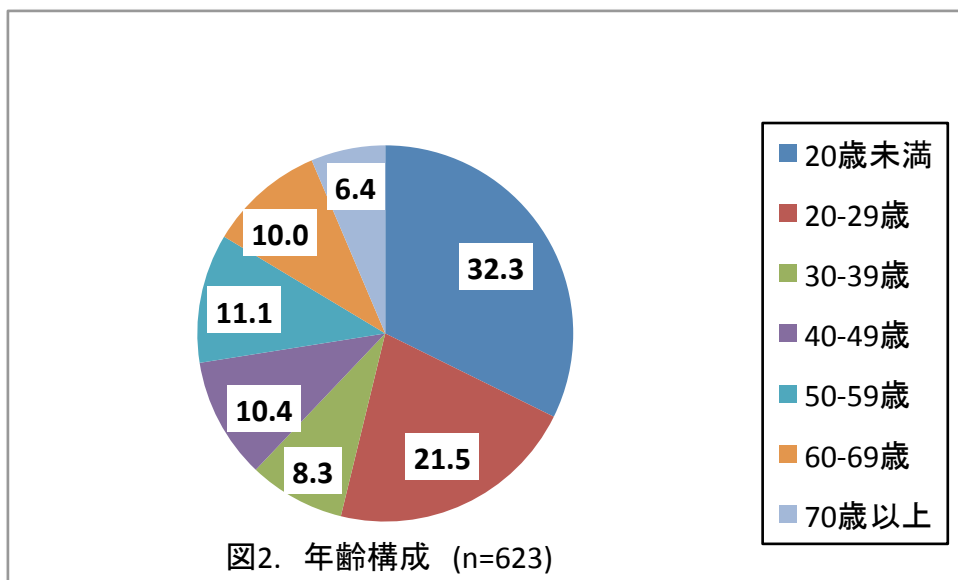
1) 性別

性別は、「男性」が 44.8%、「女性」が 55.2%であり、やや女性の割合が高かった（図 1）。



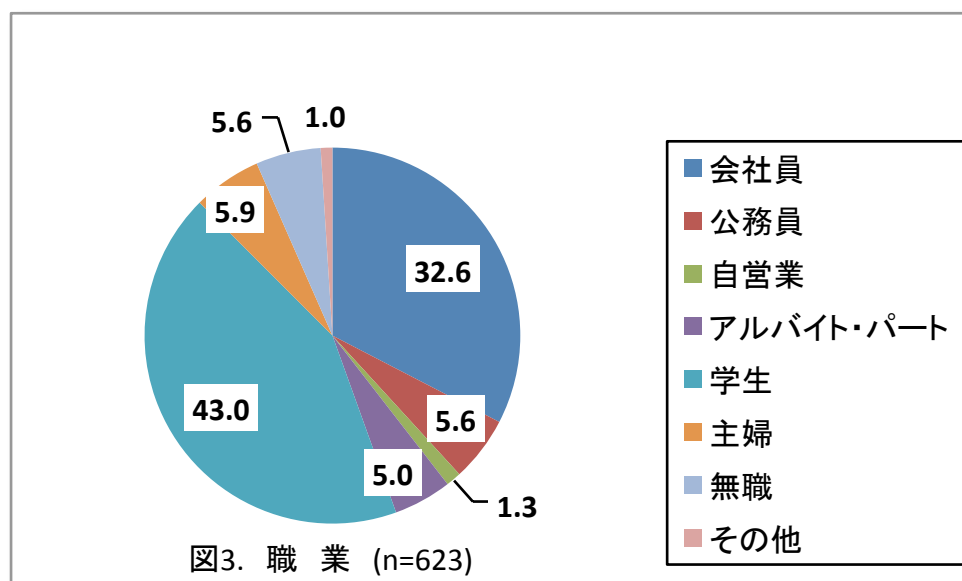
2) 年齢構成

年齢構成は、「20 歳未満」が最も多く 32.3%、次いで「20 歳代」が 21.5%、「50-59 歳」が 11.1%であった（図 2）。また、10 歳代～20 歳代の若年層が約半数（53.8%）を占めていた。一方、50 歳以上の中高年層は 27.5%であった。



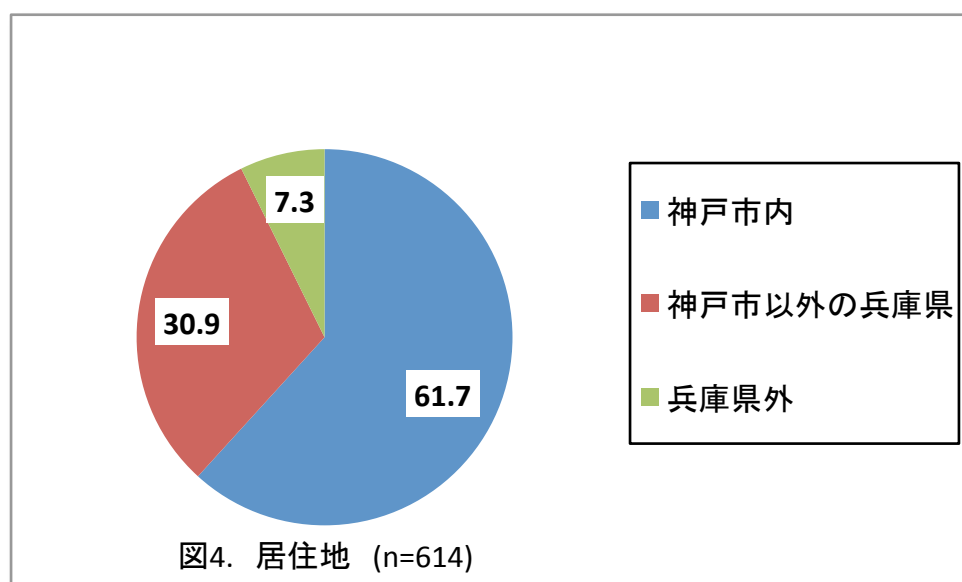
3) 職業

職業は、「学生」が43.0%で最も多く、次いで「会社員」が32.6%、「主婦」が5.9%、「公務員」が5.6%、「無職」が5.6%であった（図3）。また、高校、大学からの学生ボランティアの参加者が半数弱を占めた。



4) 居住地

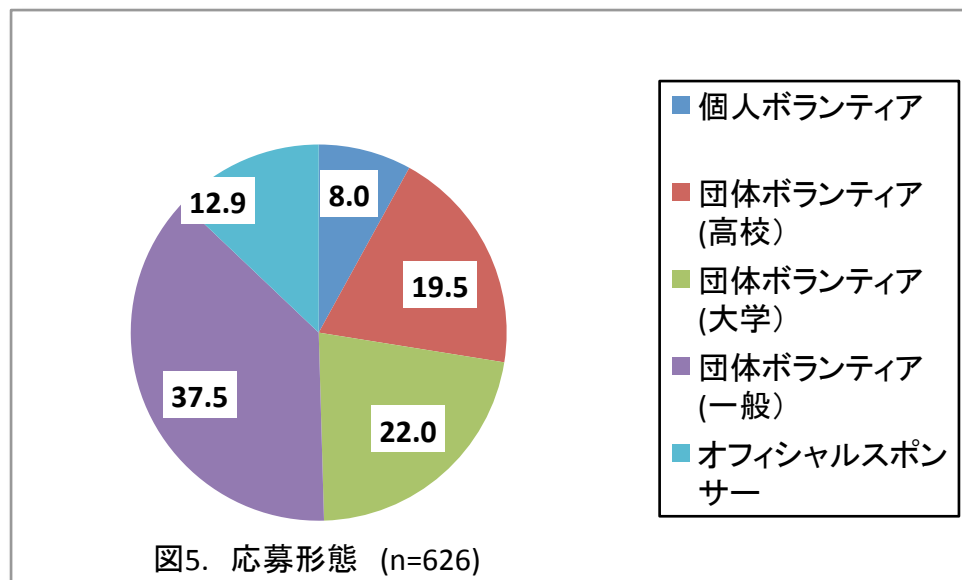
居住地は、「神戸市内」が61.7%と最も多く、次いで「神戸市以外の兵庫県」が30.9%、「兵庫県外」が7.3%であった（図4）。つまり、約6割が神戸市在住であり、9割以上（92.6%）が兵庫県在住の参加者であった。



2. 本大会におけるボランティア活動について

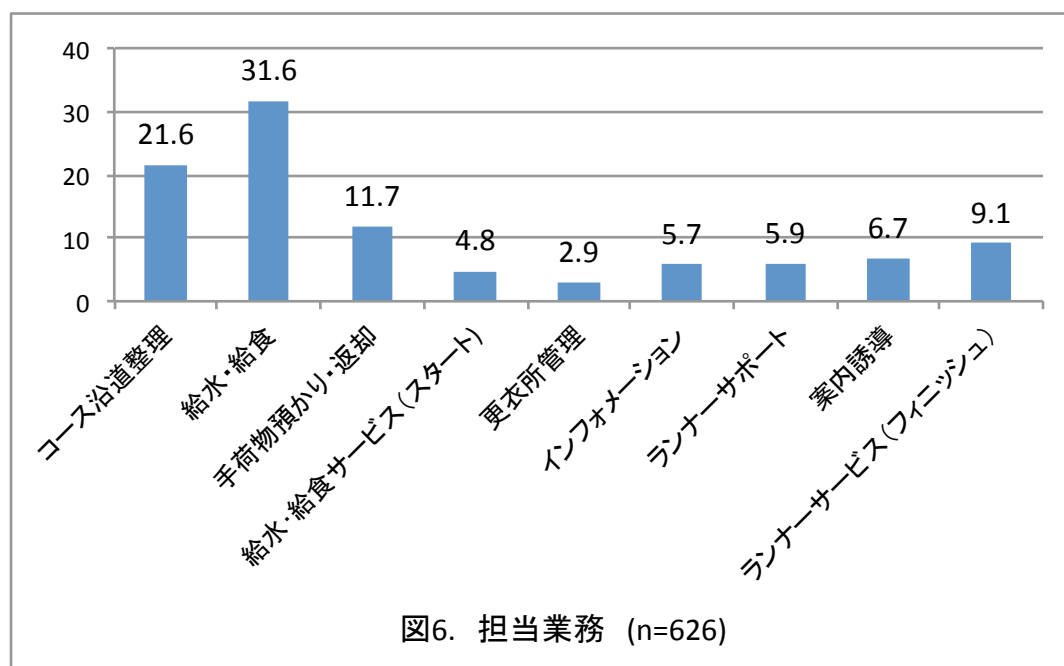
1) 応募形態

応募形態は、「団体ボランティア（一般）」が 37.5%と最も多く、次いで「団体ボランティア（大学）」が 22.0%、「団体ボランティア（高校）」が 19.5%、「オフィシャルスポンサー」からのボランティアが 12.9%、1-4 名の登録者の「個人ボランティア」が 8.0%の順であった（図 5）。



2) 担当業務

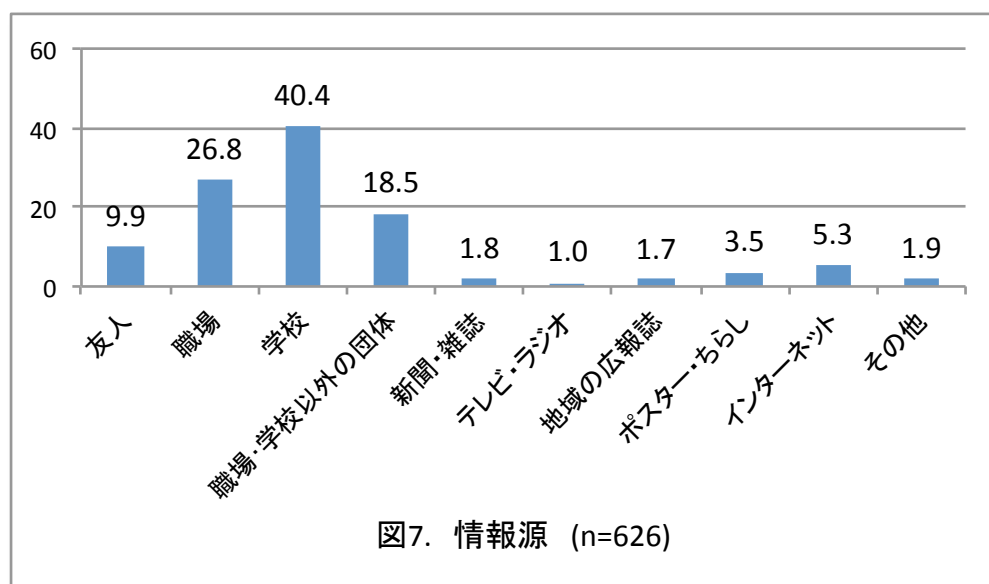
担当業務は、「給水・給食」が 31.6%と最も多く、次いで「コース沿道整理」が 21.6%、「手荷物預かり・返却」が 11.7%の順であった（図 6）。マラソンボランティアの活動場所は「コース沿道での活動」と「コース以外での活動」に大別される。「コース沿道での活動」は 53.2%、「コース以外での活動」は 46.8%であり、「コース沿道での活動」の割合がやや多かった。



3) 情報源

「ボランティアの情報を何で知りましたか？」の問いに、当てはまる番号すべてに○をつけてもらった(複数回答)。「学校」が40.4%と最も多く、次いで「職場」が26.8%、「職場・学校以外の団体」が18.5%、「友人」が9.9%の順であった(図7)。

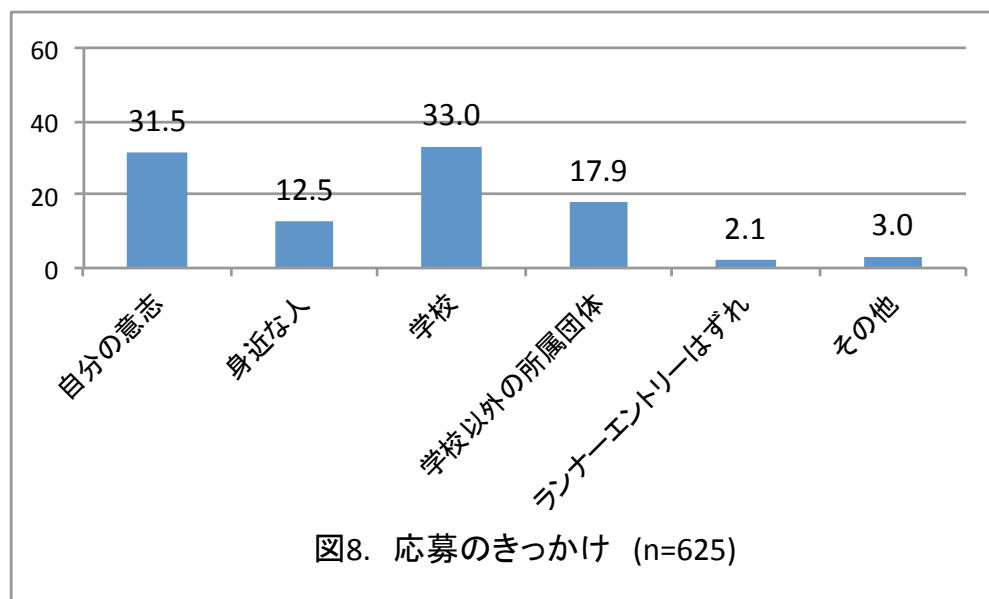
新聞・雑誌、広報誌、テレビ・ラジオ、インターネットなどのマスコミによる情報が少なかったことから、これらのマスコミによる情報よりも、口コミでの情報が多かったことが伺える。



4) 応募のきっかけ

「ボランティアの応募のきっかけは何ですか？」の問いに、当てはまるもの1つを回答してもらった。「学校から」が33.0%と最も多く、次いで「自分の意志」が31.5%、「学校以外の所属団体」が17.9%、「身近の人から」が12.5%の順であった(図8)。

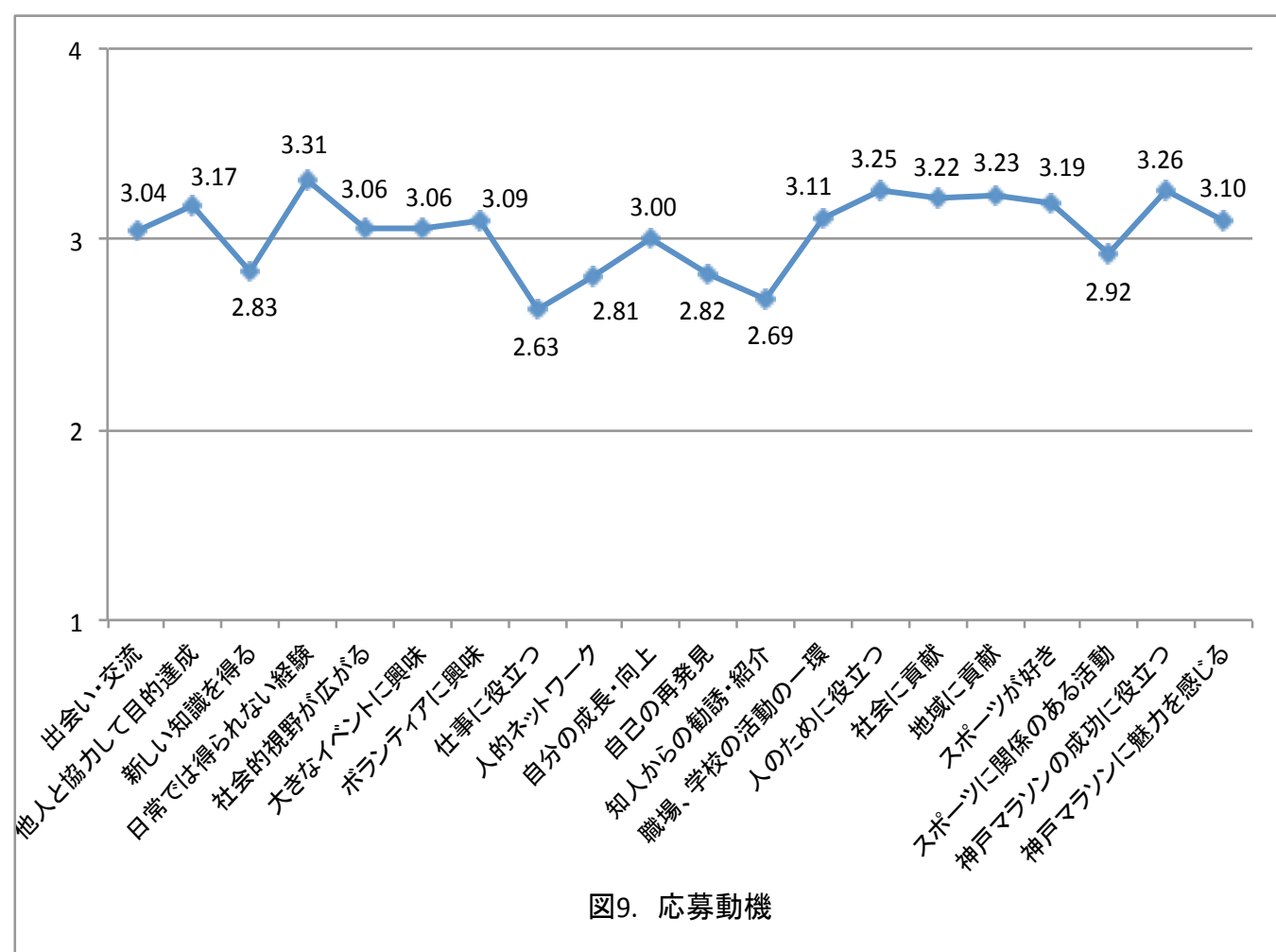
ボランティアの約3割が自発的な参加者であり、周囲からの勧めがきっかけとなり参加している者が7割程度であった。学生ボランティアの多くは、学校(教員など)から勧められて参加したことが推察できる。また、「ランナーとしてエントリーしたがはずれた」が2.1%と少なかった。



5) ボランティアへの応募動機

ボランティアに応募した動機 20 項目を「1.当てはまらない 2.あまり当てはまらない 3.まあ当てはまる 4.非常に当てはまる」の 4 つの中から回答してもらった。平均値が最も高かったのは「日常では得られない経験ができる」が 3.31 であり、次いで「神戸マラソンの成功に役立つ」が 3.26、「人のために役立つ」が 3.25、「地域に貢献できる」が 3.23、「社会に貢献できる」が 3.22 で高い値を示した。一方、「仕事に役立つ」は 2.63 であり、「知人からの勧誘・紹介」は 2.69 と低い値を示した（図 9）。

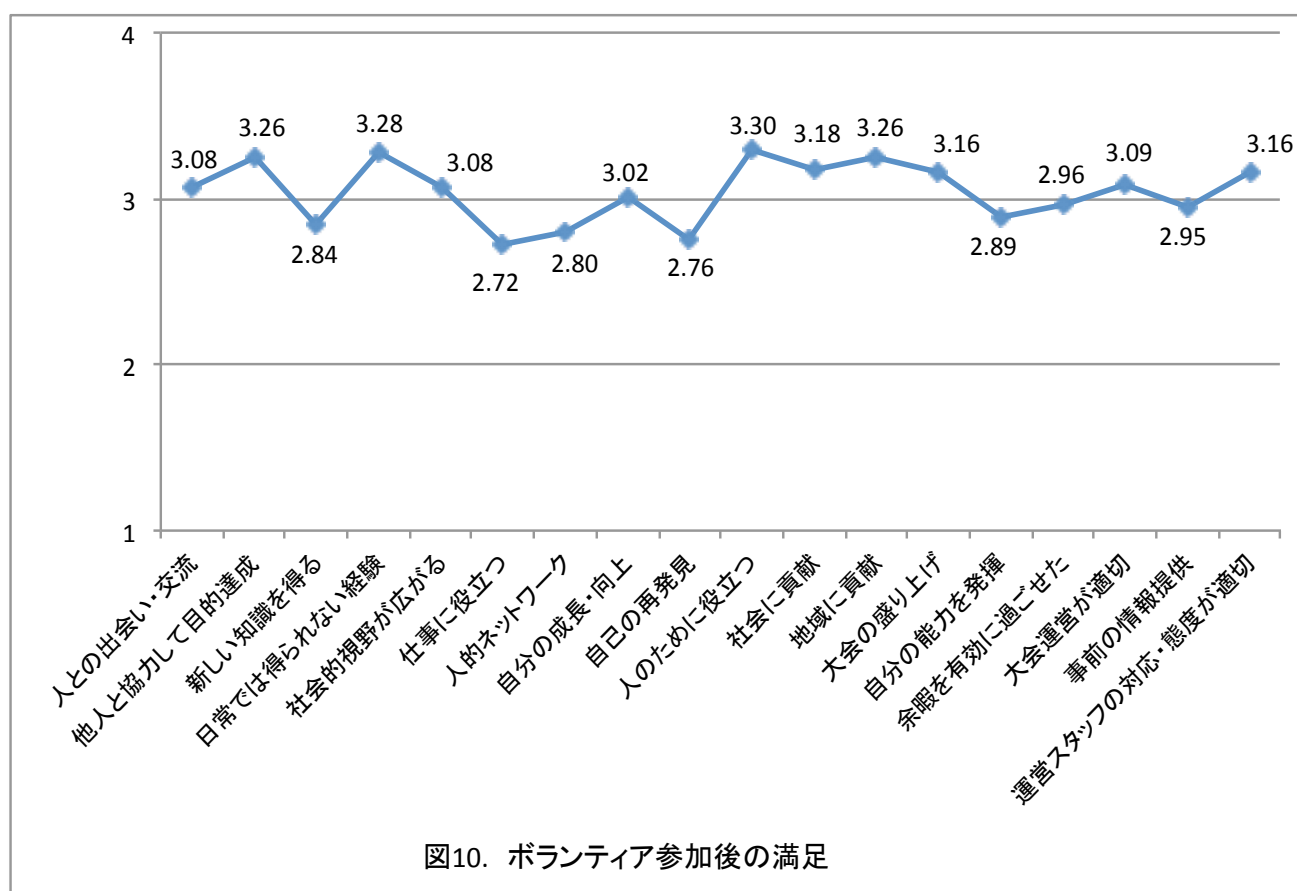
この結果から、「非日常」「貢献」など、非日常の経験ができることや大会の成功、地域・社会に貢献したいという反応が高かった。一方で、「キャリア」に関する項目は低い値を示した。



6) ボランティア参加後の満足

ボランティア参加後の満足 18 項目の項目について「1.当てはまらない 2.あまり当てはまらない 3.まあ当てはまる 4.非常に当てはまる」の4つの中から回答してもらった。平均値が最も高かったのは「人のために役立った」が 3.30 であり、次いで「日常では得られない経験ができた」が 3.28、「他人と協力して目的を達成できた」が 3.26、「地域に貢献できた」が 3.26 で高い値を示した。一方、「仕事に役立った」が 2.72、「自己の再発見につながった」が 2.76「人的ネットワークがつくれた」が 2.80 で低い値を示した（図 10）。

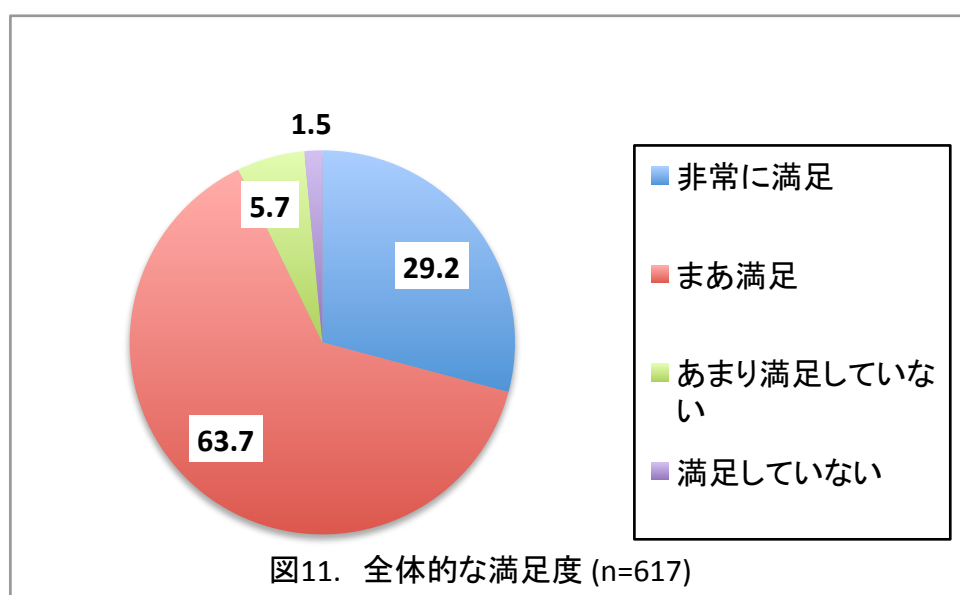
「非日常」「貢献」「協力」の項目で高い満足度を示し、一方、「キャリア」の項目での満足度は低い値を示した。



7) 全体的な満足度

今回のボランティア全体を通しての満足度を「非常に満足している」「まあ満足している」「あまり満足していない」「満足していない」の4つの中から回答してもらった。「非常に満足している」が29.2%、「まあ満足している」が63.7%、「あまり満足していない」が5.7%、「満足していない」が1.5%であった（図11）。

「非常に満足している」と「まあ満足している」を足した値が92.9%であったことから、ボランティア参加者は概ね満足しているという結果であった。しかし、「まあ満足している」の方が多かったことから、「非常に満足している」と感じる参加者をさらに増やすことが重要であると思われる。

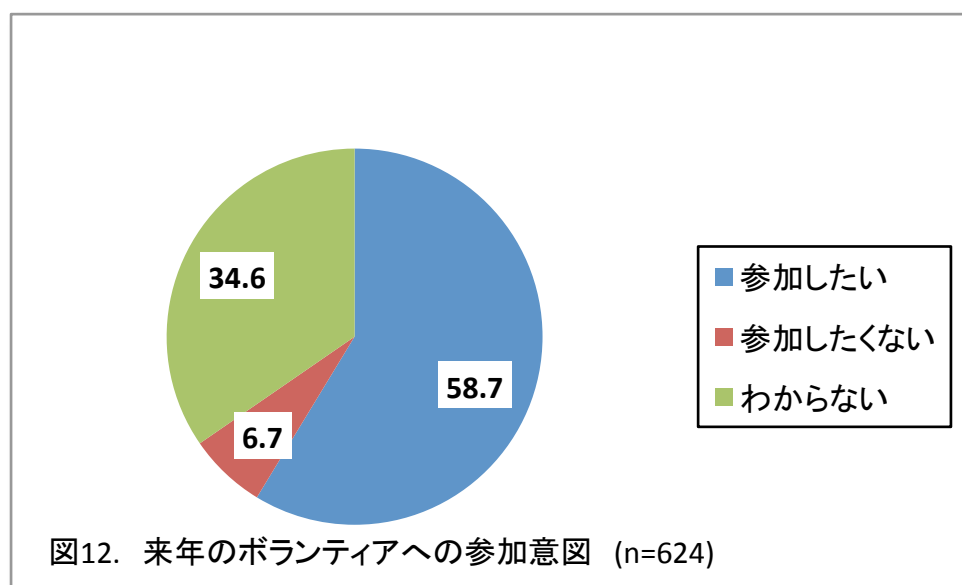


3. 次回大会への参加意図と昨年の活動状況

1) 来年の神戸マラソンボランティアへの参加意図

来年の神戸マラソンボランティアへの参加意図を「1.はい 2.いいえ 3.わからない」の3つの中から回答してもらった。「はい」＝「参加したい」が58.7%、「いいえ」＝「参加したくない」が6.7%、「わからない」が34.6%であった（図12）。

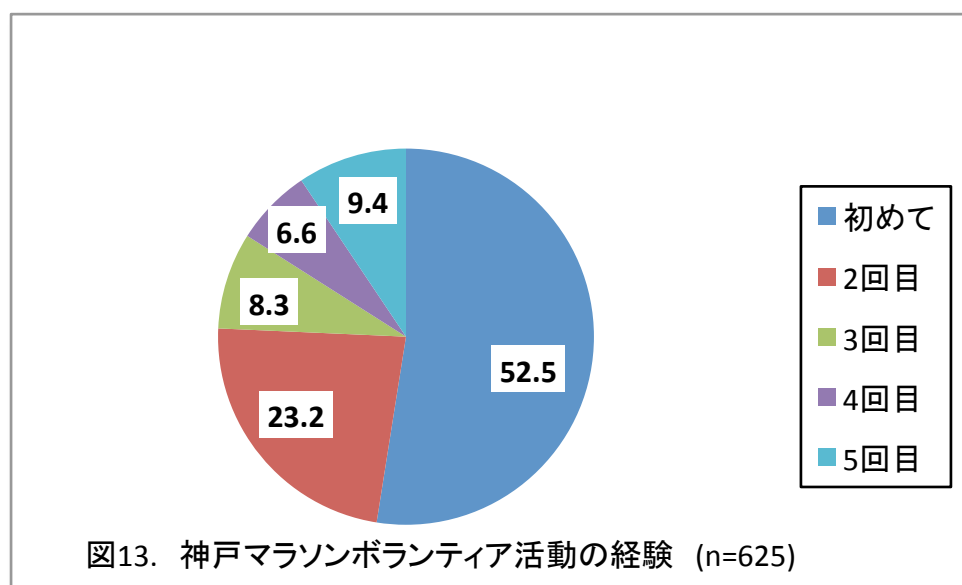
回答者の約6割が来年も参加したいと回答し、約3割は次回参加の可否を保留している。この割合は例年とだいたい同じような傾向であるが、この3割の参加者をどのようにして参加したい意図をもたせるかが今後の課題であり、活動を通じて継続意欲がわくようなボランティア活動となるよう内容を充実させていくことが重要である。



2) 神戸マラソンボランティア活動の経験

神戸マラソンボランティア活動回数を「1. 今回が初めて 2. 2回目 3. 3回目 4. 4回目 5. 5回目」で回答してもらった。今回が初めての参加であった人が 52.5%、2 回目が 23.2%、3 回目が 8.3%、4 回目が 6.6%、5 回目が 9.4%であった（図 13）。

ほぼ半数が初めての参加者であり、ほぼ半数が複数回の参加者であった。つまり、半数弱が複数回の参加者であるが、この割合を増やしていくことが重要である。前項の再参加意図と同様に、一度経験した活動を通じてさらに継続意欲がわくようなボランティア活動となるよう内容を充実させていくことが重要である。リピーターが増加することは、その経験などからボランティア活動の質を高めることにも繋がりやすく、好循環が期待される。



4. スポーツ活動状況

1) スポーツ実施頻度

「週に3回以上」と回答した人が26.4%、「週に1-2回」が30.4%、週1回以上の定期的実施者が56.8%であり、非常にアクティブな人々であることが推測される。逆に、「行わなかった」と回答した人は11.7%であった（図14）。

今回のボランティアの6割弱が週1回以上スポーツを行っていることから、日常生活でスポーツを積極的に取り入れたライフスタイルであることが明らかになった。

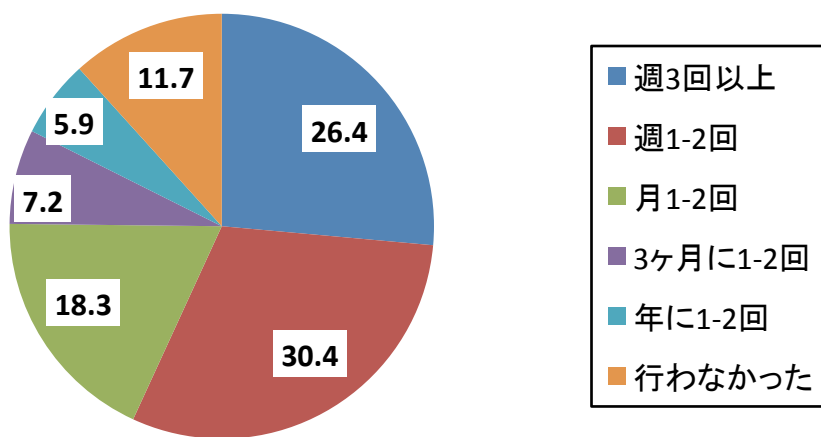
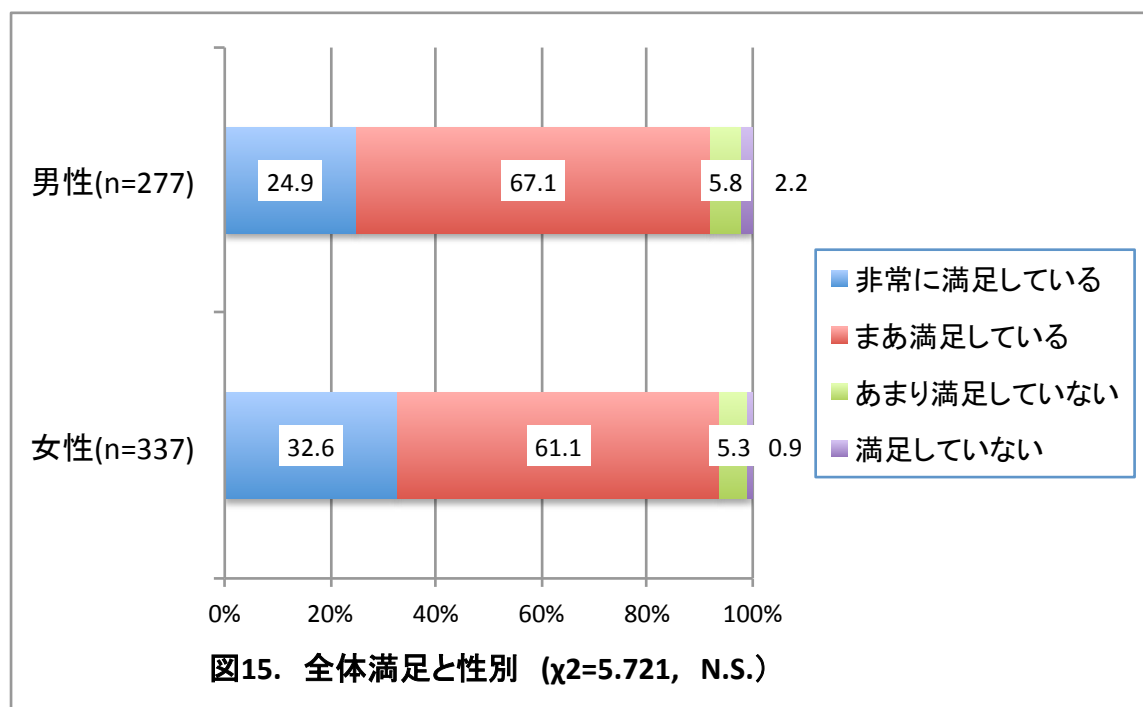


図14. スポーツ実施頻度 (n=622)

5. 全体的な満足度のクロス集計結果

1) 満足と性別

図 15 には、全体的な満足度を性別でクロス集計した結果を示した。その結果、「非常に満足している」は男性が 24.9%であり、女性は 32.6%であった。「まあ満足している」は男性が 67.1%であり、女性は 61.1%であった。また、「非常に満足している」と「まあ満足している」を足した値は女性が 93.7%であり、男性が 92.0%と性別で大きな差はみられず、統計的にも有意な差はみられなかった。したがって、満足度においては性別で大きな違いはみられないことが明らかになった。

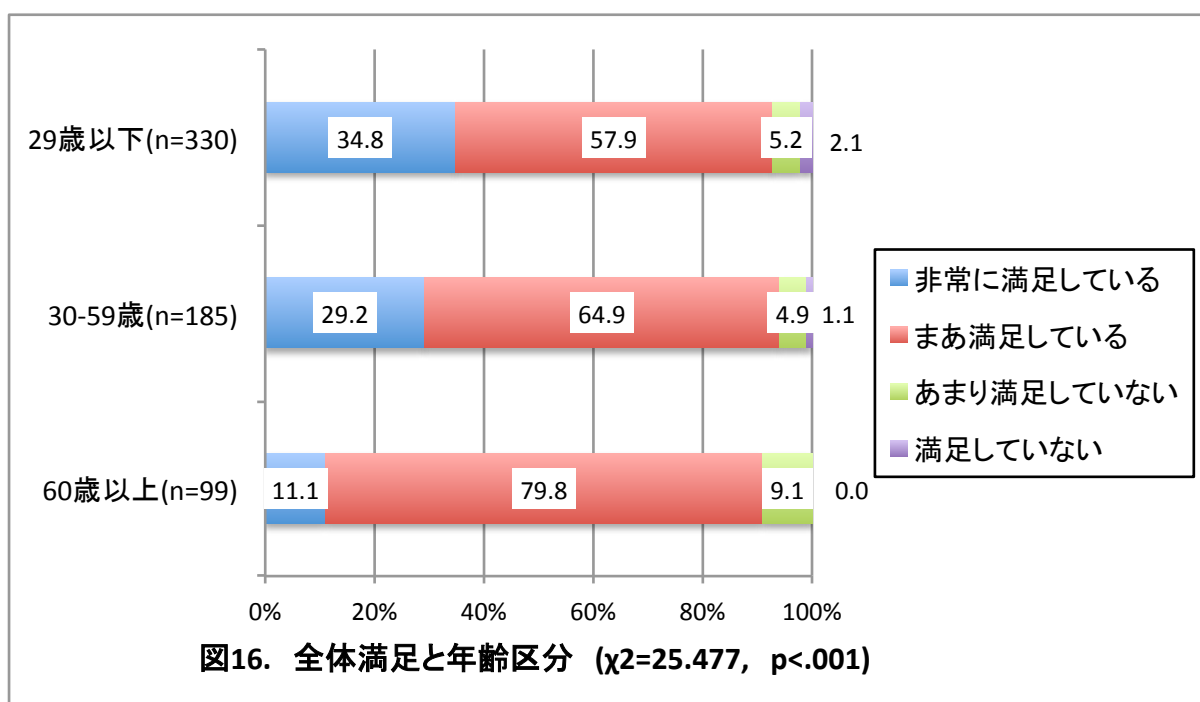


2) 満足と年齢区分

図 16 には、全体的な満足度を年齢区分でクロス集計した結果を示した。年齢区分は「20 歳未満」「20-29 歳」を「29 歳以下」とし、「30-39 歳」「40-49 歳」「50-59 歳」を「30-59 歳」に、「60 歳-69 歳」「70 歳以上」を「60 歳以上」に区分した。「29 歳以下」は 330 名、「30-59 歳」は 185 名、「60 歳以上」は 99 名であった。

その結果、「非常に満足している」は、29 歳以下が 34.8%、30-59 歳は 29.2%、60 歳以上は 11.1%と年齢が高くなるほど減少していた。「まあ満足している」は、29 歳以下が 57.9%、30-59 歳は 64.9%、60 歳以上は 79.8%と年齢が高くなるほど増加していた。年齢区分においては、0.1%水準で有意差がみられた。

これらのことから、年齢が若いほど非常に満足している者の割合が多いことが明らかになった。

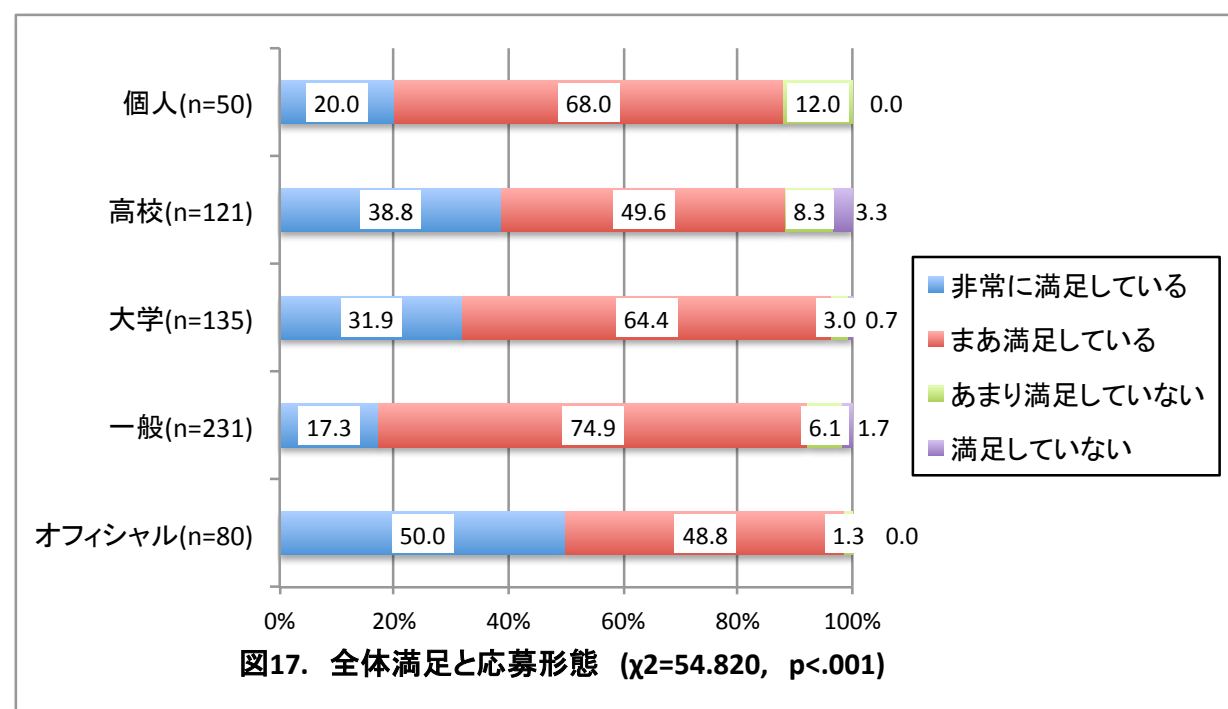


3) 満足と応募形態

図 17 には、全体的な満足度を応募形態でクロス集計した結果を示した。応募形態は、個人または 4 名以下のグループである「個人ボランティア」が 50 名、「団体ボランティア（高校）」が 121 名、「団体ボランティア（大学）」が 135 名、5 名以上の団体である「団体ボランティア（一般）」が 231 名、オフィシャルスポンサーからのボランティアである「オフィシャルスポンサー」が 80 名であった。

その結果、各応募形態の「非常に満足している」は、「個人ボランティア」が 20.0%、「団体ボランティア（高校）」が 38.8%、「団体ボランティア（大学）」が 31.9%、「団体ボランティア（一般）」が 17.3%、「オフィシャルスポンサー」が 50.0%であった。「まあ満足している」は、「個人ボランティア」が 68.0%、「団体ボランティア（高校）」が 49.6%、「団体ボランティア（大学）」が 64.4%、「団体ボランティア（一般）」が 74.9%、「オフィシャルスポンサー」が 48.8%であった。応募形態においては、0.1%水準で有意差がみられた。

「非常に満足している」の回答者の割合は、「オフィシャルスポンサー」「団体ボランティア（高校）」「団体ボランティア（大学）」の順で高い値を示し、「団体ボランティア（一般）」「個人ボランティア」においては、低い値を示した。「オフィシャルスポンサー」「団体ボランティア（高校）」「団体ボランティア（大学）」では非常に満足している者の割合が多く、一方、「個人ボランティア」と「団体ボランティア（一般）」はあまり多くないことが明らかになった。

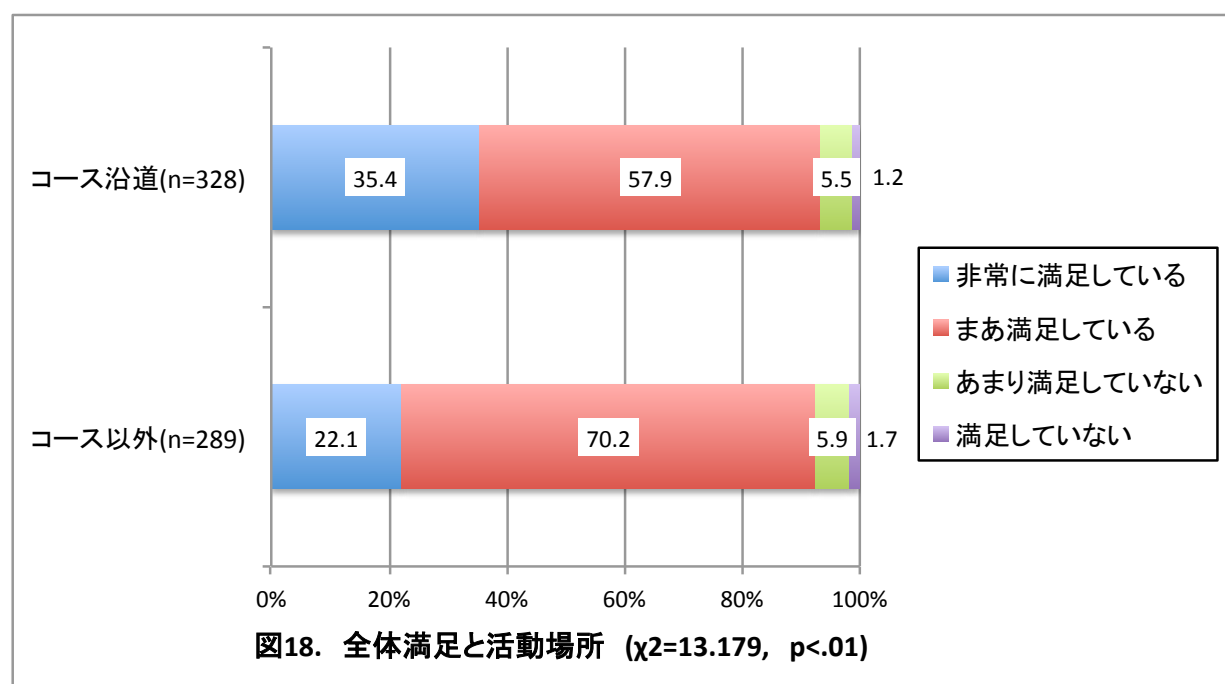


4) 満足と活動場所

図 18 には、全体的な満足度を活動場所でクロス集計した結果を示した。活動場所は、担当業務(P.8)の「コース沿道整理」と「給水・給食」のマラソンコース上の担当業務を「コース沿道」とし、残りの担当業務を「コース以外」とした。「コース沿道」は 328 名、「コース以外」は 289 名であった。

その結果、「コース沿道」の「非常に満足している」は 35.4%、「コース以外」は 22.1%であった。「コース沿道」の「まあ満足している」は 57.9%、「コース以外」は 70.2%であった。活動場所においては、1%水準で有意差がみられた。

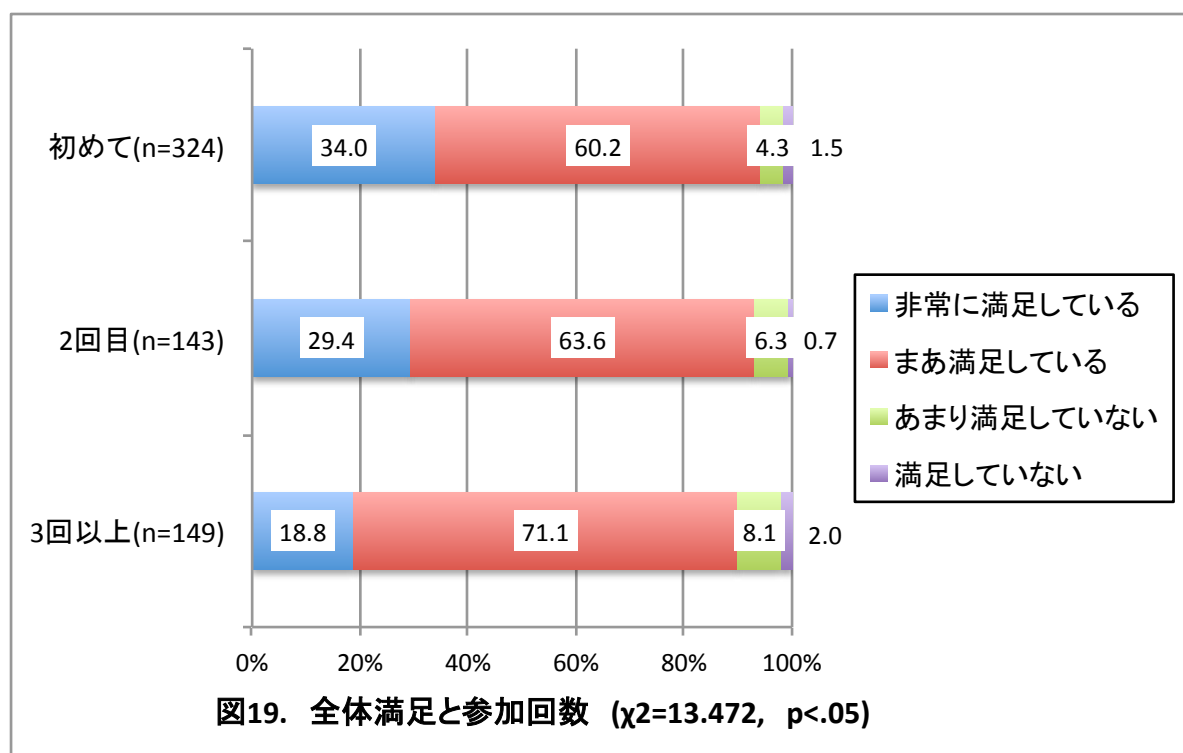
このことから、活動場所をコース沿道とコース以外に分けた場合、「コース沿道」の方が非常に満足している者の割合が多いことが明らかになった。



5) 満足と参加回数

図 19 には、全体的な満足度を参加回数でクロス集計した結果を示した。参加回数は、ボランティア活動回数(P. 14)の「初めて」「2 回目」「3 回以上」の 3 つに分類を行った。参加回数は、「初めて」の参加者が 324 名、「2 回目」が 143 名、「3 回以上」が 149 名であった。その結果、「初めて」の「非常に満足している」は 34.0%、「2 回目」は 29.4%、「3 回以上」は 18.8%であった。「初めて」の「まあ満足している」は 60.2%で、「2 回目」は 63.6%、「3 回以上」は 71.1%であった。参加回数においては、5%水準で有意差がみられた。

「非常に満足している」の回答者の割合は、「初めて」の参加者が最も多く、回数を重ねるごとに、非常に満足している者の割合が少なくなっている傾向がみられた。このことから、参加回数が少ないボランティアの方が満足度が高いことが明らかになった。

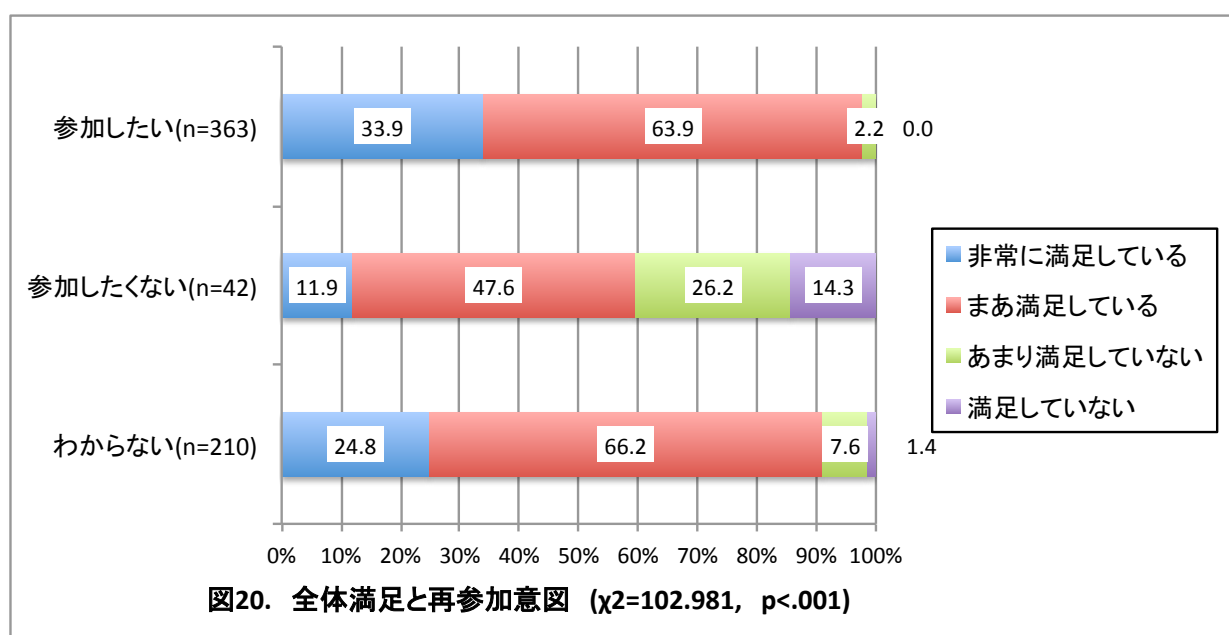


6) 満足と再参加意図

図 20 には、全体的な満足度を来年の再参加意図でクロス集計した結果を示した。再参加意図は、「参加したい」と回答した参加者が 363 名、「参加したくない」が 42 名、「わからない」が 210 名であった。

その結果、「参加したい」と回答した参加者の「非常に満足している」は 33.9%、「参加したくない」と回答した参加者は 11.9%、「わからない」と回答した参加者は 24.8%であった。「参加したい」と回答した参加者の「まあ満足している」は 63.9%、「参加したくない」は 47.6%、「わからない」は 66.2%であった。再参加意図においては、0.1%水準で有意差がみられた。

「非常に満足している」の回答者の割合は、「参加したい」と回答した参加者が最も多く、「参加したくない」と回答した参加者が最も少なかった。次も参加したいと考えている参加者は満足度も高く、もう参加したくないと考えている参加者は満足度も低いことが明らかになった。

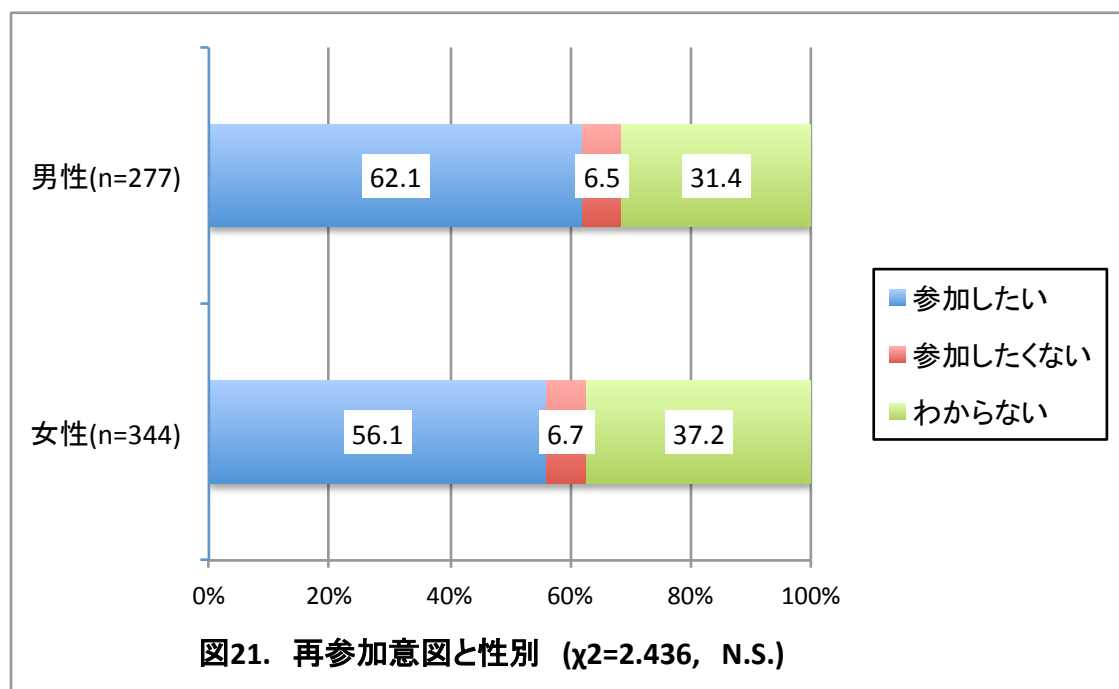


6. 来年の再参加意図のクロス集計結果

1) 再参加意図と性別

図 21 には、再参加意図を性別でクロス集計した結果を示した。「参加したい」と回答した来年の再参加意図のある人は、「男性」が 62.1%、「女性」が 56.1%であり、男性の方がやや多い傾向がみられた。また、「参加したくない」と回答した来年の再参加意図がない人は、「男性」が 6.5%、「女性」が 6.7%であり、ほぼ同じような値であった。性別においては、統計的に有意な差はみられなかった。

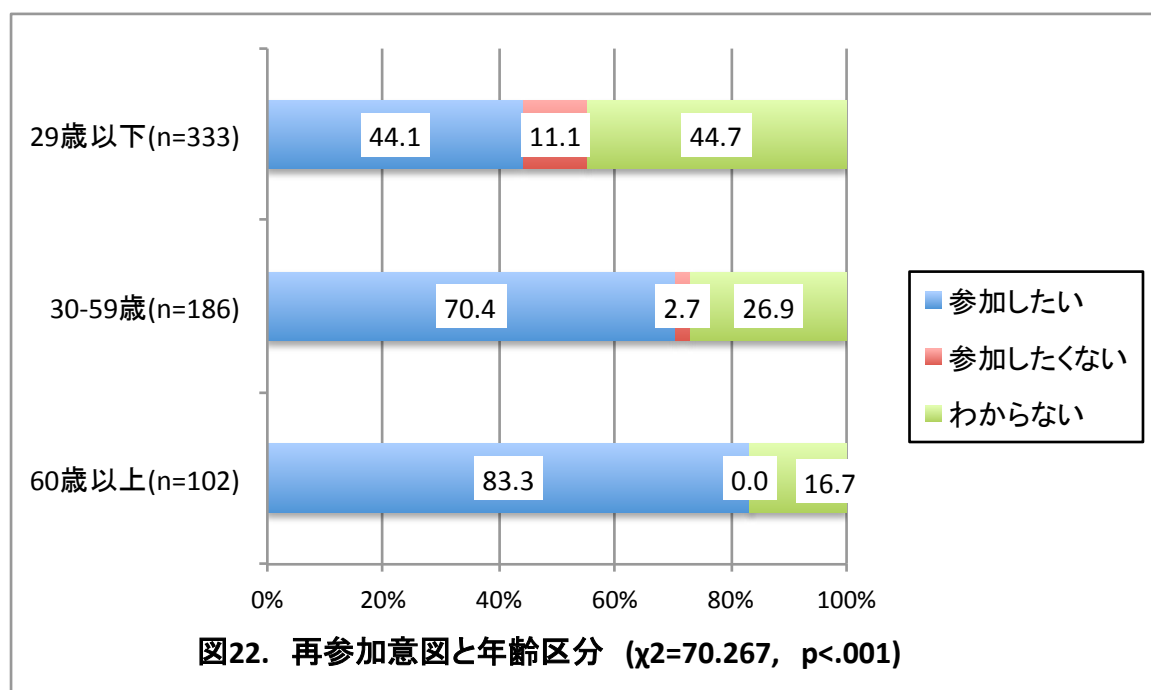
したがって、再参加意図においては性別において大きな違いはみられなかった。



2) 再参加意図と年齢区分

図 22 には、再参加意図を年齢区分でクロス集計した結果を示した。「参加したい」と回答した来年の再参加意図のある人は、「60 歳以上」が 83.3%、「30-59 歳」が 70.4%、「29 歳以下」が 44.1% であり、年齢の高い層の方が再参加意図が高かった。また、「参加したくない」と回答した来年の再参加意図のない人は、「29 歳以下」が 11.1%、「30-59 歳」が 2.7%、「60 歳以上」が 0% で、年齢が高い層になるほど減少していた。年齢区分での集計では、0.1% 水準で有意差がみられ、年齢の高い層が年齢の低い層よりまた参加したいと思っている人が多いことが明らかになった。

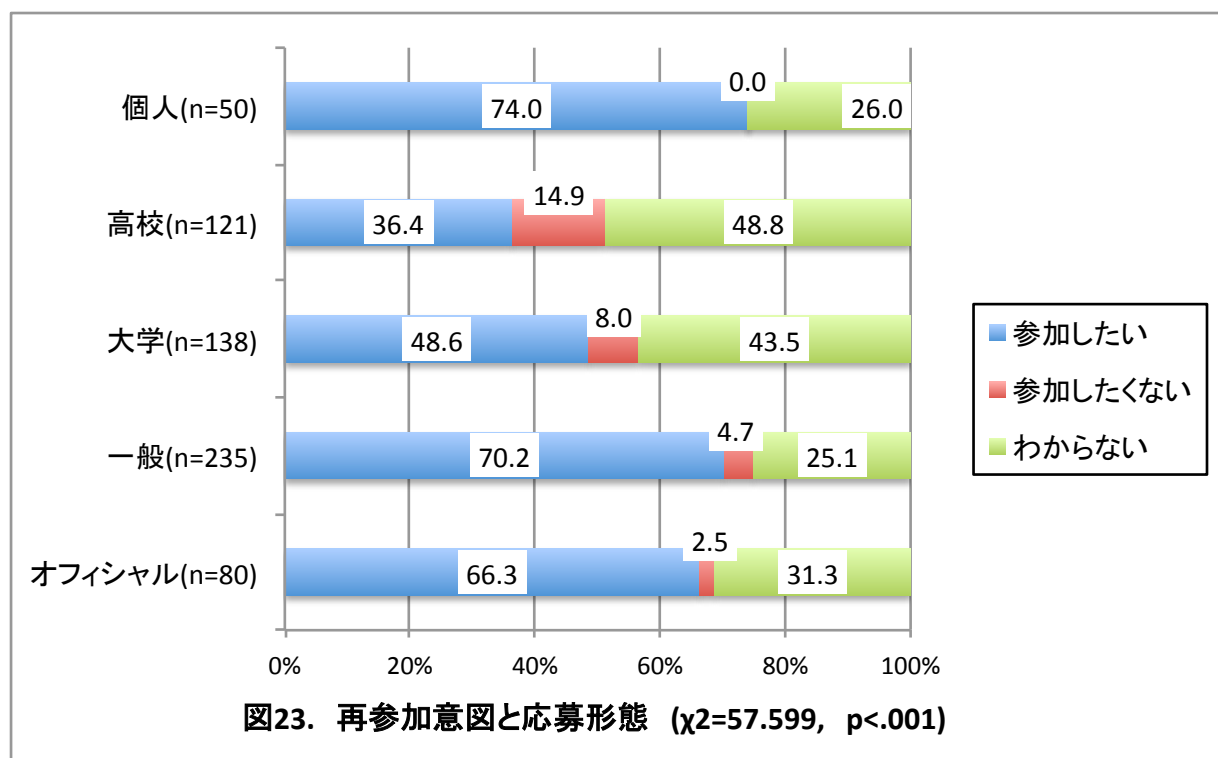
「29 歳以下」の満足度は最も高かったが、再参加意図は低く、一方、「60 歳以上」の満足度は低かったにも関わらず、再参加意図は高かった。若年層において、満足度は高いが再参加意図は低く、高齢者において、満足度は低いが再参加意図は高いという傾向は、例年同じようにみられる。年齢区分において、満足度と再参加意図が比例しない傾向は、ボランティア（マラソンボランティア）の特徴である可能性が考えられる。



3) 再参加意図と応募形態

図 23 には、再参加意図を応募形態でクロス集計した結果を示した。「参加したい」と回答した来年の再参加意図のある人は、「個人ボランティア」が 74.0%であり、再参加意図をもつ割合が最も高い値を示した。また、「いいえ」と回答した再参加意図のない人は、「団体ボランティア（高校）」が 14.9%と高い値を示した。応募形態での集計においては、0.1%水準で有意差がみられ、「個人ボランティア」「団体ボランティア（一般）」「オフィシャルスポンサー」で再参加意図をもった人が多く、一方、「団体ボランティア（高校）」は再参加意図をもった人が少ないことが明らかになった。

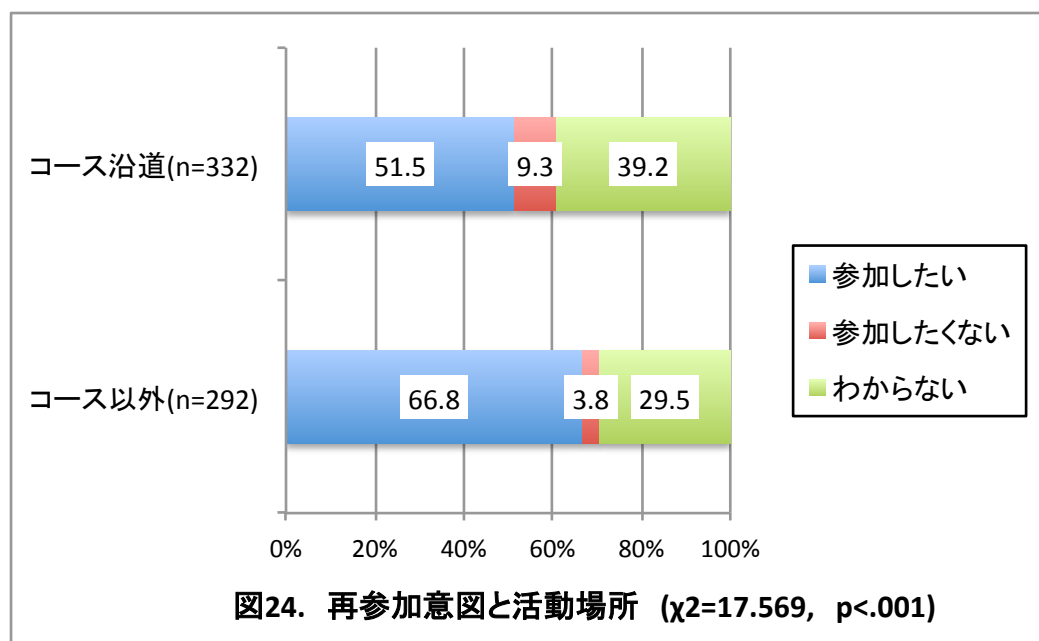
応募形態と満足度（P. 18）を比較してみると、「個人ボランティア」「団体ボランティア（一般）」の満足度は低かったが、再参加意図は最も高かった。一方、「オフィシャルスポンサー」は満足度も高く、再参加意図も高かった。「オフィシャルスポンサー」においては、満足度と再参加意図の間に同様の傾向がみられたが、「個人ボランティア」「団体ボランティア（一般）」においては同じような傾向がみられなかった。「個人ボランティア」「団体ボランティア（一般）」の年齢区分は 60 歳以上が他の応募形態よりも多い（「個人ボランティア」=44.0%、「団体ボランティア（一般）」=32.9%）ことから、年齢層が他の応募形態より高いことが考えられる。したがって、前項の年齢区分の特徴と相関している可能性が推察される。



4) 再参加意図と活動場所

図 24 には、再参加意図を活動場所でクロス集計した結果を示した。「参加したい」と回答した来年の再参加意図のある人は、「コース沿道」が 51.5%、「コース以外」が 66.8%であった。「参加したくない」と回答した来年の再参加意図のない人は、「コース沿道」が 9.3%、「コース以外」が 3.8%であった。「わからない」と回答した参加意図を保留している人は「コース沿道」が 39.2%、「コース以外」が 29.5%であった。

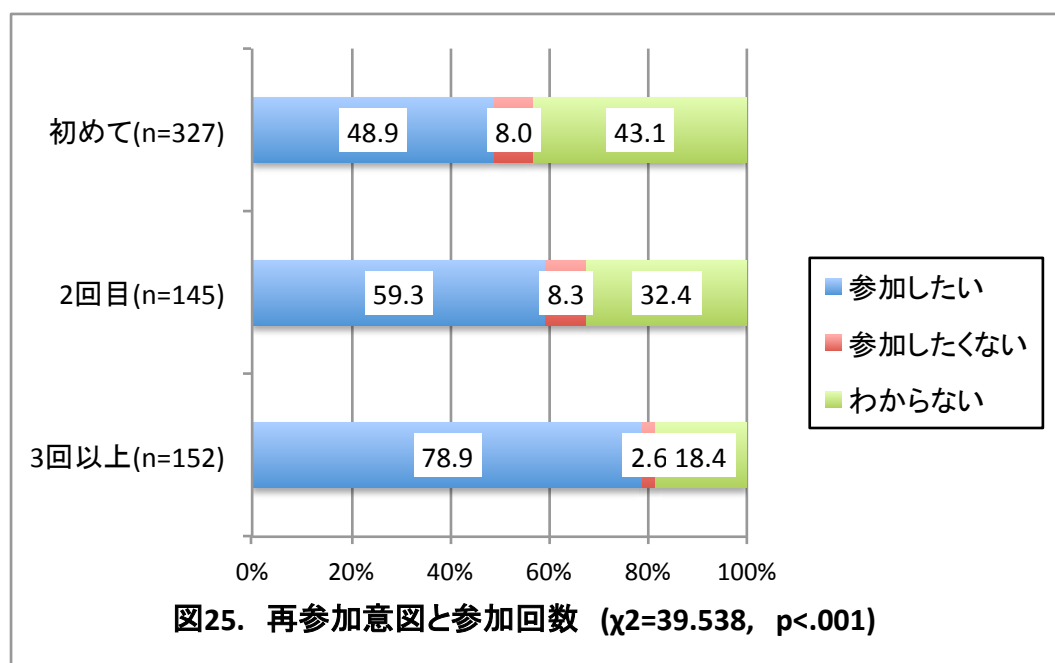
活動場所においては、0.1%水準で有意差がみられた。活動場所と満足度 (P. 19) を比較してみると、「コース沿道」の満足度は有意に高かったが、再参加意図は「コース沿道」の方が有意に低かった。この結果より、活動場所において満足度と再参加意図に関連性はみられないことが示された。



5) 再参加意図と参加回数

図 25 には、再参加意図を参加回数でクロス集計した結果を示した。「参加したい」と回答した来年も再参加意図のある人は、「初めて」の参加者が 48.9%、「2 回目」の参加者が 59.3%、「3 回以上」の参加者が 78.9%となっており、回数が多くなるほど再参加意図をもつ割合が高い値を示した。また、「いいえ」と回答した再参加意図のない人は、「初めて」の参加者が 8.0%、「2 回目」の参加者が 8.3%、「3 回以上」の参加者が 2.6%となっており、「3 回以上」の参加者が最も低い値を示した。

これらの結果より、参加回数が多くなるにしたがい、再参加意図も大きくなることが示され、参加回数の多い参加者は次回も参加する意志が強いことが明らかになった。参加回数においては、0.1%水準で有意差がみられた。参加回数と満足度 (p. 20) を比較してみると、「初めて」の満足度は有意に高かったが、再参加意図の値は「初めて」の方が有意に低かった。これらのことから、参加回数において満足度と再参加意図に関連性はみられないことが示された。



7. 動機と再参加意図

次回も参加したいと思っている参加者は、どのような動機をもって参加しているのかを調べるために、動機と再参加意図でクロス集計を行った（表 1）。その結果、20 項目中 18 項目において有意差がみられ、ほとんどの項目で「参加したい」が最も高い値を示し、「参加したくない」が最も低い値を示した。有意差がみられた項目の中でも、F 値の大きさから顕著な差がみられた項目を赤字で示した。赤字で示した項目を F 値の大きかった順に列挙すると、「神戸マラソンの成功に役立ちたい」「ボランティアに興味がある」「地域に貢献したい」「神戸マラソンに魅力を感じる」「他人と協力して目的を達成したい」「社会に貢献したい」「人のために役立ちたい」であった。このように、再びボランティアに参加したいと思っている人の動機の特徴は、「神戸マラソン」「ボランティアへの興味」「貢献」「協力」がキーワードとして挙げられる。

表1. 動機と再参加意図

	参加したい	参加したくない	わからない	F-value	
人との出会い・交流	3.20	2.48	2.89	21.42	***
新しい知識を得る	2.97	2.19	2.72	20.47	***
大きなイベントに興味	3.20	2.40	2.95	24.31	***
仕事に役立つ	2.65	2.29	2.66	3.42	*
自分が成長・向上	3.08	2.48	2.96	11.07	***
知人からの勧誘	2.76	2.62	2.59	1.79	
人のために役立つ	3.38	2.64	3.14	27.12	***
スポーツが好き	3.27	2.55	3.15	14.85	***
神戸マラソンの成功に役立つ	3.42	2.50	3.12	40.57	***
他人と協力して目的を達成	3.32	2.48	3.04	29.90	***
日常では得られない経験	3.43	2.74	3.22	20.76	***
ボランティアに興味	3.29	2.33	2.89	40.46	***
人的ネットワーク	2.95	2.26	2.68	17.37	***
自己の再発見	2.92	2.26	2.77	11.80	***
職場・学校の活動の一環	3.07	2.98	3.18	1.33	
社会に貢献	3.37	2.56	3.09	27.70	***
スポーツに関係ある活動	3.03	2.29	2.85	14.32	***
神戸マラソンに魅力	3.28	2.43	2.93	35.58	***
社会的視野が広がる	3.17	2.57	2.99	13.78	***
地域に貢献	3.41	2.57	3.06	36.39	***

*:p<.05, ***:p<.001

8. 満足（各項目）と再参加意図

ボランティア参加後に、次回も参加したいと思っている人は、具体的にどのような項目で満足を感じているのかを調べるために、各項目の満足と再参加意図のクロス集計を行った（表2）。ほとんどの項目で「参加したい」が高い値を示し、18項目中17項目で有意差がみられた。

有意差がみられた項目の中でも、F値の大きさから顕著な差がみられた項目を赤字で示した。赤字で示した項目をF値の大きかった順に列挙すると、「余暇を有効に過ごせた」「他人と協力して目的を達成できた」「スタッフの対応・態度が適切であった」「人との出会いや交流があった」「大会運営が適切だった」「地域に貢献できた」「社会に貢献できた」「事前の情報提供が適切だった」であった。今回初めて、「スタッフの対応・態度が適切」「大会運営が適切」「事前の情報提供が適切」といった大会運営に関する項目で顕著な差がみられた。これは大会運営に満足した人は、また参加したいと思い、逆に、大会運営に満足していない人は、もう参加したくないと思うことになる。これは、運営サイドのあり方や対処の仕方次第で、ボランティア参加者の再参加意図に影響を与えることを示す興味深いデータである。

再参加意図がある人は、具体的な満足として「貢献」「交流」「達成」「運営」といったキーワードがあげられる。特に、「貢献」「交流」のキーワードは重要であり、一人で黙々と作業をするよりも他のボランティアやランナーとコミュニケーションをとりながら目的を達成し、地域や社会に貢献できたと感じるものが再参加意図に大きくつながるものと考えられる。また、「運営」のキーワードでは、運営面の良し悪しも再参加意図に影響を与えていることから、運営サイドのより一層の充実が求められる。

表2. 満足と再参加意図

	参加したい	参加したくない	わからない	F-value	
大会運営が適切	3.21	2.71	2.96	17.61	***
大会の盛り上げ	3.25	2.88	3.05	10.71	***
人のために役立つ	3.34	3.12	3.26	3.25	*
自分の成長・向上	3.08	2.67	2.98	5.84	**
仕事に役立つ	2.72	2.45	2.77	2.36	
新しい知識を得る	2.90	2.34	2.83	9.02	***
人との出会い・交流	3.17	2.45	3.05	17.85	***
事前の情報提供が適切	3.08	2.69	2.78	13.51	***
自分の能力を発揮	2.96	2.62	2.81	5.95	**
社会に貢献	3.29	2.79	3.06	16.09	***
自己の再発見	2.84	2.40	2.70	6.29	**
人的ネットワーク	2.88	2.50	2.73	5.76	**
日常では得られない経験	3.35	2.93	3.23	8.46	***
他人と協力して目的を達成	3.39	2.81	3.12	22.34	***
スタッフの対応・態度	3.30	2.76	3.00	19.07	***
余暇を有効に過ごせた	3.15	2.36	2.74	30.20	***
地域に貢献	3.37	2.93	3.12	16.43	***
社会的視野が広がる	3.19	2.68	2.97	13.11	***

*:p<.05, **:p<.01, ***:p<.001

資料 「ボランティア活動を終えての感想、意見、要望」(自由記述)

個人ボランティア

○ 満足群

楽しかった

- ・役に立てたなら良かったと思う。自分個人としては楽しい大会であった。(50 歳代、女性)

充実感

- ・ボランティアの大事さを知った。(50 歳代、女性)
- ・ランナーをサポートできてよかった。(50 歳代、女性)
- ・選手の方々に出会えて良かった。(70 歳以上、女性)
- ・神戸マラソンを走ったとき、沿道の声に感動をもらった。今回恩返しができてよかった。(30 歳代、女性)

次回も参加

- ・暑い中、非常に盛り上げることができた。来年も参加したい。(20 歳代、男性)

その他

- ・ボランティアにも慣れて落ち着いている。(70 歳以上、男性)

●不満足群

運営

- ・英語担当で行ったのに、当日中国語や韓国語にまわされた。ほか1名
- ・その都度その都度の連絡が不十分。(60 歳代、女性)
- ・3 日の説明会で受け取った書類の中に間違いがあった。(60 歳代、女性)

スタッフ・リーダー

- ・エリアリーダーがしっかりしていない。選考を考えるべき。スタッフウェアをだらしなく着ている人がある。(70 歳以上、男性)

トイレ・ゴミ箱等

- ・トイレトペーパーの供給をもっと考えるべき。ほか1名
- ・トイレの電気が消えたままだった。(60 歳代、女性)

その他

- ・手荷物返却の際、タオルを首に巻いているのでゼッケンが見えにくい。(60 歳代、女性)

○ 意見・要望群

集合時間

- ・家から始発で間に合うボランティア場所にしてほしい。（40 歳代、女性）

運営

- ・通訳に関して、事前にもっと説明をしてほしい。（10 歳代、女性）
- ・自発的な役割分担が必要なため、サポートが必要。（40 歳代、男性）
- ・手荷物返却係をしていたが、誘導サインがもっと親切な方がいいと思った。（20 歳代、女性）
- ・多くのボランティアがある中で、個人は個人でまとめてほしい。（30 歳代、女性）
- ・事前にパンフレットなどの中にクォーターマラソンのことを明確に説明してほしい。（40 歳代、女性）
- ・ランナー受付の際に区分けがあったが、障がい者ランナーと外国人ランナー以外の人がブロックを勘違いして入ろうとするケースが多々見られたので、改善してほしい。（30 歳代、男性）

スタッフ・リーダー

- ・ボランティアリーダーの育成が必要。（70 歳以上、男性）

トイレ・ゴミ箱等

- ・トイレの表示を分かりやすくしてほしい。（60 歳代、男性）
- ・トイレトペーパーが全てなかった。電灯もない。カラーコーンやロープを用意してほしい。（70 歳以上、男性）
- ・西側ブロックエリア 5 のトイレ前にロープや表示板を用意し整列させたい。ゴミ袋の支給をしてほしい。（50 歳代、男性）
- ・3 号館での手荷物返却で、ゴミ箱が大変少なく、ランナーが探していたので、増やしてほしい。（40 歳代、女性）

更衣室

- ・更衣室の看板をみやすくしてほしい。（60 歳代、女性）

団体ボランティア（高校）

○ 満足群

楽しかった

- ・楽しかった。　ほか9名
- ・とても楽しく、役に立てたなら良かったと思った。（10歳代、女性）
- ・忙しかったが、とても楽しかった。（10歳代、女性）
- ・走る前の緊張した顔の人やコスプレをした人がいて、少し緊張もしたが楽しかった。（10歳代、女性）

充実感

- ・充実したボランティア活動になった。（10歳代、女性）
- ・自分のためになった。（10歳代、女性）
- ・応援していて、自分自身のためになったし、お礼を言われて嬉しかった。（10歳代、女性）
- ・初めての経験で、人のために頑張ることができて嬉しかった。（10歳代、女性）
- ・声が枯れるほど応援した。みんな頑張っていてカッコ良かった。（10歳代、女性）
- ・声掛けに反応してくれるランナーもあり、楽しく、やりがいがあった。（10歳代、女性）

貴重な経験

- ・とてもいい経験ができた。　ほか4名
- ・普段経験できないことができたので、貴重な経験になった。（10歳代、女性）
- ・参加出来たことを誇りに思い、今後の競技生活において、大きな経験となった。来年も参加したい。（10歳代、男性）

貢献

- ・ランナーの役に立てて良かった。　ほか2名
- ・少しでもランナーの役に立てたら嬉しい。（10歳代、女性）

協力・交流

- ・ランナーと交流できてよかった。　ほか4名
- ・人との関わりがあり楽しかった。（10歳代、女性）
- ・全然知らない人と協力してマラソンを作り上げている感じがあって楽しかった。（10歳代、女性）
- ・裏方のサポート、警察、ランナーが一つになって楽しくできたので、すがすがしい。（10歳代、男性）

感動・感謝

- ・ランナーが感謝してくれて嬉しかった。　ほか1名
- ・ランナーから勇気をもらえた。（10歳代、男性）

- ・ランナーから元気をもらえた。（10 歳代、男性）

その他

- ・人間の心理などが、目に見えておもしろかった。（10 歳代、女性）
- ・自分が相手の目を見て挨拶できていないことに気付き、それから目を見て笑顔で挨拶することができたので、良かった。（10 歳代、女性）

●不満足群

運営

- ・段取りが悪すぎて 2 度としたくない。（10 歳代、女性）
- ・効率が悪い。指示が適切でない。（10 歳代、男性）
- ・歩行者が交通規制を無視して混乱。給水ポイントだけでも交通規制を厳しくするべき。（10 歳代、女性）
- ・シールがはがれやすくて困った。（10 歳代、男性）

スタッフ・リーダー

- ・区長が遅刻し、指示なし。ほか 2 名
- ・区長の遅刻はありえない。（10 歳代、女性）
- ・全体的に説明不足。設置の仕方から片付けの仕方までほとんど説明がなかった。後から言われても二度手間。（10 歳代、女性）

ボランティア

- ・だるかった。（10 歳代、女性）

その他

- ・一般の人の態度が悪い。ほか 1 名

○意見・要望群

運営

- ・冊子に後片付けの仕方、本部の場所などを詳細に書いてほしい。（10 歳代、女性）
- ・ランナーの役に立てたのは良かったが、歩道の方も規制したらもっとやりやすかった。（10 歳代、男性）
- ・荷物を預けるとき、袋のひもを閉じるよう周知することを徹底してほしい。（10 歳代、男性）

スタッフ・リーダー

- ・リーダーからもっと指示を出してほしい。（10 歳代、女性）

ボランティア

- ・ボランティアに参加する人の待遇をもう少し手厚くしてほしい。（10 歳代、不明）

団体ボランティア（大学）

○ 満足群

楽しかった

- ・はじめは少し不安と緊張があったが、とても楽しかった。（10 歳代、女性）
- ・初めてだったけど楽しくできた。（10 歳代、男性）
- ・立ちっぱなしで足が疲れたが、楽しかった。（20 歳代、男性）
- ・すごく楽しく、応援するのはお互い様だと感じ、とても良かった。（20 歳代、女性）

充実感

- ・すごく良かった。（20 歳代、女性）
- ・しんどかったが、達成感があった。（20 歳代、女性）
- ・とても疲れたが、自分自身が成長できたと思う。（20 歳代、女性）
- ・応援したらみんなからありがとうと言われ嬉しかった。（10 歳代、女性）
- ・ランナーへ声掛けをすることが主な仕事だったが、とても中身のあるボランティアだった。（20 歳代、男性）
- ・完走者にメダル配布する役割であったが、去年のペットボトル配布よりやりがいを感じた。（10 歳代、男性）
- ・完走者にメダルをかけると笑顔でお礼を言ってもらえて、とても充実していた。（20 歳代、女性）
- ・ボランティアリーダーの明確な指示がとても良かった。（20 歳代、男性）
- ・昨年より説明がしっかりしていた。（10 歳代、女性）

感動・感謝

- ・ランナーが感謝してくれて、とても嬉しかった。（10 歳代、女性）
- ・応援するとありがとうと応えてくれて嬉しかった。（10 歳代、女性）
- ・ボランティアで参加しているこちらまで元気をもらった。（20 歳代、女性）

貴重な経験

- ・貴重な経験ができた ほか2名

貢献

- ・ありがとうと言われ嬉しかった。少しでも役に立てたかなと思う。（10 歳代、女性）
- ・疲れたが、人の役に立てて良かった。（20 歳代、女性）
- ・ランナーを元気づけることができたと感じた。（10 歳代、女性）

交流

- ・知らない人と交流できて良い経験になった。 ほか1名
- ・地域の人と出会い、そして交流ができ満ちた。（10 歳代、男性）

●不満足群

運営

- ・AED 担当の人がどこにいるか分からず、走り回った。対処が遅くてかわいそうだった。(10 歳代、女性)
- ・活動範囲と人数が妥当でないと思った。自分の区がどこからどこまでか分からなかったので、目印がほしかった。(20 歳代、女性)
- ・人数が少ないのに、すごく範囲が広くて、応援が辛かった。(10 歳代、女性)

スタッフ・リーダー

- ・区長が自分の仕事を把握していなかった。(20 歳代、女性)

○ 意見・要望群

給水・給食

- ・給水と給食を逆の位置にしてほしい。 ほか 2 名
- ・お菓子が足りなかったなので、もっと給食を増やしてほしい。(20 歳代、女性)
- ・お菓子の種類や説明などを、充分にしてほしい。(20 歳代、女性)
- ・チョコは溶けるので別の物にしてほしい。(20 歳代、女性)
- ・嘔吐したランナーへ例外的に水分補給をしても良いと感じた。(20 歳代、男性)
- ・スープを入れるおたまをしずく型にしてほしい。(10 歳代、女性)

団体ボランティア（一般）

○ 満足群

楽しかった

- ・楽しかった。　ほか5名

充実感

- ・満足できた。（40 歳代、男性）
- ・多少疲れたが、スタッフの一員として役立つことができ満足できた。（20 歳代、男性）
- ・ランナーの支援ができて良かった。（60 歳代、男性）
- ・有意義な時間を過ごすことができた。（60 歳代、男性）
- ・応援できて良かった。（50 歳代、男性）

感動・感謝

- ・ランナーの姿を見て感動した。（20 歳代、女性）
- ・多くのランナー、スタッフのエネルギーに感動した。　ほか1名

貴重な体験

- ・いつもは走る側だが、支援する側になりたいと思い参加した。逆の立場を経験でき、非常に良い経験になった。　ほか1名

協力・交流

- ・全く知らない方と交流できて良かった。（60 歳代、女性）
- ・人々の協力あって成り立つものと思った。（40 歳代、男性）
- ・普段はランナーとして参加しているので、今回ボランティアとして参加することで人の協力で成り立っているのだと実感できた。（50 歳代、女性）

次回も参加

- ・また参加したいと思う。（60 歳代、女性）

スタッフ・運営

- ・スタッフの対応が適切であったので、スムーズに業務が進行できた。　ほか1名
- ・誘導の仕方が適切だった。（70 歳以上、女性）
- ・トイレ担当で、分散設置でやりやすかった。（70 歳以上、男性）

その他

- ・ボランティアによって成り立っている大会だと感じた。（20 歳代、女性）
- ・曇天ながら大勢の人が意欲的に走っていて良かった。（70 歳以上、男性）
- ・朝の挨拶に選手の方も応えてくれて気持ちよくボランティアできた。（50 歳代、女性）

● 不満足群

集合時間

- ・拘束時間が少し長い（50 歳代、男性）

運営

- ・ボランティア人数が多すぎた。　ほか1名
- ・案内誘導役員の数を減らしても大丈夫。（20 歳代、男性）
- ・誘導の看板がわかりにくい。（50 歳代、女性）
- ・案内板の場所が昨年と変更されていなかった。（50 歳代、男性）
- ・案内板と地図の向きが不一致。（40 歳代、男性）
- ・スタート地点の地図がわかりにくい。（60 歳代、女性）
- ・自販機の回収箱が無くゴミが散乱していた。（40 歳代、男性）
- ・棄権の人と完走者の区別が最後の方が曖昧になっていた。（40 歳代、女性）
- ・制限時間後に柄タオルを渡すなど、タオル渡しに少々不公平感があつた。（30 歳代、女性）
- ・各自の役割が明確でなかったため、スムーズな設営ができていなかった。（10 歳代、男性）

スタッフ・リーダー

- ・エリアリーダーは何をしているか分からず、不要だと思った。更衣室のリーダーは自分の活動を把握していなかった。（60 歳代、男性）
- ・まとめ役のスタッフが知識不足だった。（30 歳代、女性）
- ・班長の中で行動がてきぱきしてない人もいた。（70 歳以上、男性）
- ・スタッフの役割分担ができていない。（30 歳代、男性）
- ・ゼッケン袋をつめる際、スタッフの動きが気になった。（60 歳代、女性）

トイレ・ゴミ箱等

- ・残り 3km 地点のトイレが詰まっていて、使用できなかった。（60 歳代、男性）
- ・トイレ使用後の手洗いの準備がなかった。（70 歳以上、女性）

その他

- ・アンケートの質問が多い。（20 歳代、男性）
- ・ボランティアに帽子は必要ないと思った。（20 歳代、男性）

○ 意見・要望群

集合時間

- ・ 集合時間を遅くしてほしい。手持ちぶさたな時間を減らしてほしい。（30 歳代、男性）

運営

- ・ 各区に水が必要だと思う。給水ポイントが少ない。（50 歳代、男性）
- ・ 各区に、給水ボトル、コールドスプレーが欲しい。（40 歳代、女性）
- ・ 体調不良のランナーの対応が大変だった。給水所以外でのスポーツドリンクの配置、毛布の配布などがあれば、フォローしやすいと思う。（30 歳代、男性）
- ・ 足がつったり、水分が足りない人が多かった。なかなか役に立てず、事前に講習会などあれば手助けできたように思う。（50 歳代、男性）
- ・ 身体、特に脚の不調に対する処置を事前に講習してほしい。（50 歳代、男性）
- ・ 救護方法をボランティア全員に周知すべきだ。（20 歳代、女性）
- ・ 更衣所の案内を分かりやすくしてほしい。看板を追加してほしい。雨天時の荷物の保護などの対応が不安。（70 歳以上、男性）
- ・ 荷物受け取り入口などの誘導をもっと早くやるべき。間違えてトラックを待っていた人がいて案内をもっと充実させてほしい。（60 歳代、男性）
- ・ 案内プラカードが必要。（70 歳以上、男性）
- ・ 案内誘導で外国からの参加者に英語で質問されたキーワードを英語でマニュアル内に示しておいてほしい。（50 歳代、男性）
- ・ 案内板の位置が悪いので変更してほしい。（40 歳代、女性）
- ・ 公園での案内板がもっと適切に設置されるべきである。 ほか 2 名
- ・ 荷物預かり場所からスタートラインまでの場所の誘導方法が必要。（50 歳代、男性）
- ・ スタッフ、警備員の配置をきちんとしてもらいたい。（50 歳代、男性）
- ・ スタートとフィニッシュの地点にしか手話通訳がないので、何かあればテレビ電話などの対応を検討し、ランナーがより安心して参加できるようにしてほしい。（40 歳代、女性）
- ・ 長傘も入るビニール袋を用意してほしい。（60 歳代、女性）
- ・ トイレや傘など、細かいことが多々生じたので、事前のブリーフィングをしっかりした方が良い。（40 歳代、女性）
- ・ 西側と東側のブロックを間違えるランナーが多く、徹底してほしい。トイレの数を増やしてほしい。（60 歳代、男性）
- ・ クォーターフィニッシュのタオル配布を、もう少しゴール地点の近くでしたら良いと思った。（30 歳代、女性）
- ・ ボランティアスタッフの荷物置き場があれば良かった。（20 歳代、男性）
- ・ 放送をもっとゆっくり話してほしい。（70 歳以上、男性）

トイレ・ゴミ箱等

- ・ 案内表示を多くし、トイレを増やしてほしい。 ほか 2 名
- ・ スタート地点付近のトイレを増やしてほしい。（40 歳代、女性）

- ・ゴミ収集は1カ所だけではなく、考えてほしい。(60歳代、女性)
- ・スタート時のゴミ回収で、ゴミ袋が足りなかったので増やすべき。(40歳代、男性)

更衣室

- ・更衣所で、ブルーシートのしく範囲を拡げてほしい。ほか2名
- ・更衣室の看板をもっと大きく表示してほしい。(70歳以上、男性)

その他

- ・インターネットでもアンケートの回答を用意してほしい。ほか1名
- ・ウインドブレーカーにフードをつけてほしい。(60歳代、男性)
- ・神戸市のPRを積極的にやっていきたい。(60歳代、男性)

オフィシャルスポンサー

○ 満足群

充実感

- ・たくさん「ありがとう」と声をかけてもらって、嬉しかった。（50 歳代、女性）
- ・ランナーの方にたくさんハイタッチをしてもらって嬉しかった。（20 歳代、女性）
- ・走ることが苦手でマラソンに興味は無かったが、ランナーを応援することで充実感、達成感を感じることが出来た。（40 歳代、女性）

感動・感謝

- ・全員が一体となって選手を応援する姿に感動した。（50 歳代、男性）
- ・給水の準備は忙しく大変だったが、間近でランナーを応援できて感動した。（40 歳代、女性）
- ・スムーズにでき、勇気をもらった。（30 歳代、女性）

貴重な経験

- ・楽しみながら、社会貢献が出来て、貴重な体験をさせてもらった。（40 歳代、女性）
- ・初参加だったが、とても良い経験になった。（20 歳代、男性）
- ・初めて参加したが、予想以上にボランティアの仕事の大変さが分かった。（20 歳代、男性）

協力・交流

- ・いろんな人との出会いやコミュニケーションがとれて良かった。（20 歳代、男性）

次回も参加

- ・神戸マラソンはライフイベントになりつつあり、来年も何らかの形で関わりを持ちたい。（50 歳代、男性）

スタッフ・運営

- ・各個人が何をすべきか考え、スムーズな運営ができたと感じた。（30 歳代、男性）
- ・事前配布されたマニュアルは分かりやすく良く出来ている。（60 歳代、男性）

●不満足群

運営

- ・気分が悪く、棄権した人への対応が遅い。（40 歳代、女性）
- ・給水所の前の方は忙しく、13 名のチームでも追い付かないときもあった。（30 歳代、男性）

○意見・要望群

事前情報

- ・新聞等で、事前に運営の仕組み等が紹介されると良いと思った。（60 歳代）

給水・給食

- ・途中から水の提供が追い付かず、予備の水を準備するスペースがあれば良いと思った。（40 歳代、女性）

運営

- ・最終ランナー通過後の道路清掃用に、ゴム手袋を用意した方が清掃しやすいと思った。（40 歳代、女性）
- ・給水ポイントの位置を近い距離にしてあげてほしい。（40 歳代、男性）

トイレ

- ・トイレをもう少し増設したら良いと思う。（30 歳代、男性）

その他

- ・持ち物にビニール手袋があった方が良いと思った。（女性）

『神戸マラソン 2015』
ボランティアに関する調査報告書
(Research report on a study of volunteers at Kobe Marathon 2015)

2016 年 1 月発行

編集 兵庫体育・スポーツ科学学会
ひょうご地域スポーツ振興プロジェクト
「神戸マラソン 2015 ボランティア調査グループ」

発行 神戸マラソン実行委員会